

平成27年第4回美祢市議会定例会会議録（その2）

平成27年12月3日（木曜日）

1. 出席議員

1番	猶野智和	2番	秋枝秀稔
3番	坪井康男	4番	俵 薫
5番	馬屋原眞一	6番	高木法生
7番	萬代泰生	8番	三好睦子
9番	山中佳子	10番	岩本明央
11番	下井克己	12番	河本芳久
13番	西岡 晃	14番	荒山光広
16番	徳並伍朗	17番	竹岡昌治
18番	岡山 隆	19番	秋山哲朗

2. 欠席議員 なし

3. 欠 員 1名

4. 出席した事務局職員

議会事務局長	石田淳司	議会事務局長	野尻登志枝
議会事務局係	大塚 享	議会事務局係	

5. 説明のため出席した者の職氏名

市長	村田弘司	副市長	篠田洋司
総務部長	田辺 剛	総合政策部長	藤澤和昭
市民福祉部長	三浦洋介	建設経済部長	西田良平
総合観光部長	奥田源良	美東総合支所長	倉重郁二
秋芳総合支所長	浜口賢真	総務部次長	大野義昭
総合政策部長	佐々木昭治	総合政策部長	中嶋一彦
企画政策課長		地域情報課長	
市民福祉部長	福田泰嗣	建設経済部長	白井栄次
地域福祉課長		建設次長	
建設経済部長	志賀雅彦	総合観光部次長	綿谷敦朗
農林課長		上下水道事業者	
教育長	永富康文	管理業者局長	波佐間 敏
代表監査委員	三好輝廣	病院事業局長	金子 彰
消防長	松永 潤	管理委員会	
		事務局	山田悦子

教育委員会
事務局次長
監査委員
事務局長
総合観光部
観光総務課長

末岡竜夫
小田正幸
繁田誠

上下水道局長
教育委員会事務局
学校教育課長

松野哲治
津守一郎

6. 付議事件

日程第 1 会議録署名議員の指名について

日程第 2 一般質問

- 1 荒山光広
- 2 岩本明央
- 3 徳並伍朗
- 4 猶野智和

7. 会議の次第は次のとおりである。

午前10時00分開議

○議長（秋山哲朗君） おはようございます。これより、本日の会議を開きます。

事務局より諸般の報告をいたさせます。事務局長。

○議会事務局長（石田淳司君） 御報告いたします。

本日、机場に配付してございますものは、議事日程表（第2号）、以上1件でございます。

御報告を終わります。

○議長（秋山哲朗君） 本日の議事日程は、お手元に配付いたしております日程表のとおりでありますので、御協力をお願いいたします。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第80条の規定により、議長において、徳並伍朗議員、竹岡昌治議員を指名いたします。

日程第2、一般質問を行います。

既に送付いたしております一般質問順序表に従いまして、順次質問を許可いたします。荒山光広議員。

〔荒山光広君 発言席に着く〕

○14番（荒山光広君） おはようございます。新政会の荒山でございます。一般質問順序表に従って質問いたします。

きょうは、地域間競争で生き残るための方策について、地域資源と人材の活用について、また、地域間競争で生き残るための生活環境等の整備についてということでお尋ねをいたします。

早いもので、ことしも残すところ一月を切ってまいりました。皆様にとって、ことはどのような年であったでしょうか。

日本は今、安倍政権の強いリーダーシップによって大企業では空前の好決算が続き、来年の春闘ではベアの実施も検討されているようであります。大都市では景気も上向いてきているようですが、地方にはまだまだその恩恵は感じられませんし、逆に厳しさを増している感さえいたします。

さきに大筋合意を見たTPPが今後実際に発効すれば、この国はどう変わっていくのか、またその波にうまく乗っていけるのか不安を抱いている国民も少なくないと思います。

今後人口が減少傾向にある我が国は、少子高齢化がますます進むことで、都会には都会の悩みや問題が、また田舎には田舎の悩みや問題が各般にわたって発生してまいります。政府は、それぞれの自治体が自立するための知恵を出し、頑張るところにはしっかりと支援をするということで、各自治体に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定を求めており、美祢市も先ごろまとめられたところであります。

そこに暮らす人々がいかに快適に、いかに豊かに暮らせる環境をつくれるか、また、観光を含めた交流人口をいかにふやせるかという、まさに地域間競争が激しさを増してまいります。

この地域間競争で生き残るためには、今ある自然や産業などの地域資源と、今、美祢市にお住まいの方や、あるいは美祢市にゆかりのある人材を活用することが肝要だと思いますが、村田市長のお考えをお尋ねいたします。

○議長（秋山哲朗君） 村田市長。

○市長（村田弘司君） それでは、荒山議員の御質問にお答えをいたしたいというふうに思います。

荒山議員、非常に世界的な、また日本国全体の視点から、非常に質問時間は短かったですけれども、中身が深い、大きな御質問だったと思います。それに対して、私の理念なり政策・施策をお述べしようと思いますので、若干時間がかかると思います。御容赦を賜りたいというふうに思います。

まず、今、人口減に入っておるということをおっしゃいました。振り返ってみれば日本国というのは、江戸幕府が開府したときに、実は人口は1,300万人程度しかいなかったということ。そして、それから二百数十年を経て明治維新になったと。その時点ですら、まだ3,300万人程度の日本の人口であったということです。それが平成20年ですか、人口のピークを迎えまして1億3,000万人弱の人口になったということ、実はこの100年程度かけて、ほぼ1億人もの人口がふえていったというのは、人類史上、ですから古今東西と言ったほうがいいですか、どこの国も、どの地域も経験したことの無いことを我々日本国は経験をしたということです。

従いまして、この日本列島という島国の中で、これほどの人口爆発を起こした結果、今、急激に人口が減ろうと、日本国全体でしておりますけれども、これはある意味自然の摂理によってそうなっておるということも言われたいことはないという

ふうに思いますんで、大きな悲観を持って考える必要はないというふうにも私は考えております。

しかしながら、今、荒山議員がおっしゃいましたように、こうなってきましたと日本国中いろんな地域があります。東京、大阪のような大都市もありますけれども、実は日本国全体は地方によって成り立っておるということが、これは自明の理であります。

安倍総理が地方創生ということで声高に言うておられるのも、そのことを安倍総理御自身がよく認識をしておられるから、地方が衰退、疲弊をしてしまうと、実は東京だけがにぎやかであっても、全く国としては成り立たないということをよく御承知の上で、ですから大きな将来を見据えた上での今政策を打っておられると私は考えております。恐らく50年、100年後を考えた上で、今、日本のちょうどこの人口の踊り場にきておりますんで、日本国全体の政策を打っておられると思っております。

その中で、先ほど申し上げた地方、特に我々のような中山間地に位置しておる美祿市のようなところですよ。ここがいかにか大切な役割を担っていくかということが言えると思います。

ですから、ある意味、地域間競争っていうことになりますけれども、実は私自身は、我々のような3万を切るような中山間の市が、いかに生き残っていくかということ、それも市民の方に自信を持って生き残っていくことができるかということをやるといことが、同じような環境の市なり町に大きな希望を与えるすべにもなるだろうし、その方が逆にフィードバックといいますか、帰ってきて、我々はそういうところの見本になっておるんだよということで、市民の方の自信にもつながるかというふうに考えてます。

ですから、地域間競争ではあるけれども、我々と同じような地域を決して蹴落とすといかというんではなくして、先々は手を結んで、ともにこの田舎を元気にしていこうというふうに形になっていけばいいというふうに思っております。

ですから、先ほど東京とか大阪そのことを申し上げたけれども、実は東京、大阪に我々美祿市はなる必要はないと思っております。東京はたくさんのビルがあつて、木々のように建っておりますけれども、我々は、西岡議員、西岡議員じゃない（笑声）、さっき髪の毛切っておられるんで目につきましたから、ちょっと目にこう入

りましたから思わず言葉が違ってしまいましたけど、失礼をいたしました。御質問にありましたように、我々は、いいですか、秋吉台のようなすばらしい地質資源を持っていますよね。これ、日本列島の歴史そのものとも言えるようなものを我々美祢市は抱いておる。これは大きな誇りですよ。

また、日本の歴史をつくっていった日本最古の官営銅山である長登銅山を持っておる。そして、豊田前、麦川にありましたように大嶺炭田、日本最大の無煙炭鉱跡もあるということで、日本じゃない、世界に比肩し得るもののないほどの地質遺産を持っておる、すばらしい資源を持っておるということが言えると思います。

その上で、すばらしい田畑も、そしてすばらしい山々もちゃんと保全をして、どこを見ても、今ちょうど初冬になりましたけれども、すばらしい景観が広がってますし、そしてそれを支えてきてこられました心豊かな、心温かい市民の方々がおられる。これら全て含めて私は、美祢市は大きな資源、人材を含めて資源だろうというふうに確信をいたしております。これをもって、これから美祢市そのものが生き残っていくということになるかというふうに思っております。

実は、衰退していく地域というのは、共通点があるんです。それは、自分がお暮らしになっておられる地域に対して失望してしまった、自信をなくしてしまった、未来を見ることができなくなったということ、これは共通しています。このことが顕著になってきますと、その地域は雪崩を打つように衰退の速度を速めてまいります。逆を言えば、市民の方々に未来に対して希望を持っていただく、そして地域に誇りを持っていただくことがいかに大きなことか、それを次世代につなげていくことこそが、いかに大きな意味を持つかということになるかというふうになると思います。

ですから、先ほど申し上げたように、世界的にも誇れる地質遺産、それから、それらとともに暮らしてきていただいた人々の歴史に光を与えていくということ、そして、合併市であります本市の市民の方々が心の垣根を越えて未来に向かっていくということ、これこそがユネスコが推進をしておられますジオパーク、すなわち地球公園を目指すということに私は政策として考えたわけです。

今、ユネスコが推進をしておるということを申し上げましたけど、実は、先月11月にユネスコの世界総会が開かれまして、このジオパーク活動そのものがユネスコの本活動に格上げされました。ですから今後は、大きな世界の潮流として、こ

のジオパークが世界中に認められ、そして広がっていった、その国、地域を振興していくための大きな方法として道が開けるといえるか、大きなものになりました。

ですから、それを先取って我々美祢市は動いておったということで、平成23年にジオパークの推進協議会を立ち上げまして、その後、日本ジオパークに一遍認定滑っちゃいまして、しかしながら、市民の方々がめげずに一生懸命やってきていただきました。保全、人づくり、そして地域振興という大きな旗を掲げまして前進をし続けた結果、御承知のように9月の4日の日に日本ジオパークに成り得たということです。

これは、山口県最初ということで、今、県内の他市も何かいいものを見つけてジオパークになりたいというところが出てまいりました。それほどこのジオパークに認定されるということが大きな意味を持つておるといえるので、市民の方々に大きな自信をお持ちいただけたのではないかとこのように考えております。

そして、ジオパーク活動を通じてパワーアップしました市民力を、さらなる美祢市の発展に結びつけていきたいというふうに決意をしておるところでございます。

なお、このジオパーク活動、ジオパークというのは観光に特化したものではありませんけれども、実は具体的に観光にも大きな効果があります。9月に認定をされまして、秋芳洞というのはお金を頂戴しますんで、ほかの観光地のように大体こんぐらい来ただろうということの数値を発表できません。実数です。これは、本当の現実の数字です。この10月末現在で秋芳洞にお入りになられた観光客の方々は、平成26年度の10月末と比較しまして5万人を超える増加を見せております。従いまして、いかにこのジオパークに認定をされたことを中心として、大きな観光地としての魅力を高めたかということも言えるというふうに思っております。

さらには、他市にない地域資源といたしまして、美祢社会復帰促進センターです。これも日本最初のPFI方式、官設民営型の、法律上は刑務所ですけれども、社会復帰をするためのセンターですから、収監されておられる方々は「センター生」という言葉でお呼びをすることになっておりますけれども、これがあります。

この社会復帰促進センターは、地元の方々、豊田前を中心とする方々の御理解と御協力を得まして、平成19年4月に設置に至ったものですが、私が今目指しております「共に生きる」、老若男女、そして障害をお持ちであろうがお持ちでなかろうが、すべからくの市民の方々がともに生きる社会の構築に向けての、まさ

にシンボリックな存在であろうというふうに思っております。

実は、昨日、新しい法務大臣、岩城さんとおっしゃる方ですけれども、山口県に入られまして美祢社会復帰促進センターに来ていただきました。私と秋山議長とお迎えをさせていただきましたけれども、センター長室に入りまして岩城大臣と非常に親しく話しをさせていただきました。やはり、今の「共に生きる」という視点との理念を非常に同感をしていただきまして、地元本当に支えていただいておりますので、感謝申し上げるという言葉も頂戴いたしました。これまでも、本市の定住人口効果や地域経済、財政効果、さらには地元豊田前地区の活性化に大きく寄与していただいておりますけれども、今後一層、施設の有する様々な資源を活用いたしまして、共生のまちづくりを進めてまいりたいというふうに望みます。

さらに、御質問の中にもありましたが、本市では人口減少対策に効果と実効性のある取り組みを戦略的に進める計画として、本年10月に美祢市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定をいたしましたところであります。その計画における横断的な取り組みといたしまして、M i n e秋吉台ジオパークを活用した取り組みと、それから、美祢社会復帰促進センターとの協働を重要戦略に掲げまして、積極的に取り組むことといたしております。

次に、人材の活用についての御質問があったと思っておりますけれども、これにお答えをいたしたいと思っております。

本市には、美祢市にお住まいの人財の方々、「ざい」は材料の「材」じゃなしに、私は財宝の「財」を使いたいと思っておりますけれども、美祢市にお住まいの人財と、それから市外から美祢市を応援していただいておりますこの人財を共有しておる。ともに持って——共有を持っておるというふうに思っています。

まず最初に、市内にお住まいの人財につきまして申し上げますと、本市にはお年を重ねられまして長年の経験と知識を生かしていただきまして、地域のために本当に活躍、活動しておられる方がたくさんいらっしゃいます。そのグループもごございます。このため、市では、意欲をお持ちのグループ、それから地域が行われる地域活性化への取り組みと、それから人づくりを支援するために、これ美祢市独自の、いずれもこれ事業ですけれども、M i n e秋吉台ジオパーク活動応援事業、さらには地域力発揮まちづくり創生事業等を実施しております、今後もさらに充実し、実施をしてまいりたいというふうに考えております。

また、市内には障害をお持ち等、さまざまな理由で社会に参加をしておられない方々もたくさんいらっしゃいます。私は、最近それが大変よく見えてまいりました。このような方々も本市にとりましては、本当に大事な人財だろうというふうに思っております。社会に出ることによって、本市の活力の一助になっていただきたいというのが切なる私の願いでもあります。

先ほども申し上げましたけれども、「共に生きる」という理念。私の市長室の私の後ろには、金澤翔子さんの「共に生きる」という書を書いていただきましたから、それを飾っておりますけれども、私の本当の理念です。ですから、「共に生きる」の理念のもとに、これらの方々が社会に出向いていただきまして、御自身に自信を取り戻していただきまして、ひいては、それが市の振興につながる事業等にも取り組んでまいりたいと考えております。

このように、本市は市の活力を発揮するためのさまざまな人財を有していると確信をしております。議員の方を初め、議会の方々、市民の方々の御理解、御協力を賜りますことを切にお願いを申し上げるところであります。

さらに、一方では、先ほど申し上げた市外で活躍、活動しておられる人財です。このことを申し上げたいというふうに思います。

本市では、現在、美祢市ふるさと交流大使を委嘱さしていただいている方が3名いらっしゃいます。まず、第1号として、現在歌手の入山アキ子さん、それからお二人として、切り絵作家です、久保修さん、そして漫画家の苑場凌さん、この3人にふるさと交流大使を委嘱さしていただいています。

まず、入山アキ子さんにおかれましては、関東を中心にさまざまな形で美祢市を本当に発信をしていただいております。いろんなところで、美祢市、秋吉台、秋芳洞ということを発言をしていただいて、この美祢市に人を流す役割を大きく関東圏で担って、関東圏だけじゃないですけども、関東を中心に担っていただいております。

また、このたび、私よく見るんですけども、NHKのBS放送ですが、「新・BS日本のうた」という番組があります。なかなかこれ、一流の歌手が出られますんで、出演がかなわない場所ですけども、これに初出演をされまして、今後のさらなる活躍が期待されております。

なお、このNHKの「新・BS日本のうた」の放送につきましては、今月、きよ

う何日ですかいね。（「3日」と呼ぶ者あり）きょう3日ですよ。12月6日です。6日の午後7時30分からNHKのBSプレミアムにおいて放送されるようになっておるようです。共演される方々のお名前を聞いておりますけれども、ここでは申し上げません。大変有名な方々と共演されるということでもありますので、皆様の応援をよろしく願いをいたしたいというふうに思います。

また、久保修さんにおかれましては、これはもう美祢市の方々より世界の方々がよく御存じ、日本国中の方々が御存じということで、本当に世界的な切り絵作家でいらっしゃるんで、美祢市のふるさと応援のための大使というのをよく受けていただいたなと思ってます。これはもう、世界的に飛び回っておられる方ですから、このことを市民の方によく申し上げておきたいんですが、久保修さんという方は非常にすごい方でいらっしゃるしまして、世界的評価は非常に高いです。世界中から注目を浴びておられる切り絵作家でもあります。

最近では、岡山市での展覧会開催のほか、またトルコにも行ってやっておられます。それから、以前はグルジアって言っておりましたけども、現在ロシア名のグルジアが気に食わんということでジョージアという国名に変更されましたけれども、ジョージアの大統領とも苑場さん、この間会われたとおっしゃっておられましたけれども、このジョージアにおいて展覧会を開催されるなど、海外の大きな文化事業、日本の文部科学省のそういうふうなお役目も担っておられるということで、活動しておられます。

ジョージアにおいて、鍾乳洞を訪問された際には、御自身のホームページ上で、この美祢市の秋芳洞のことも広く世界中に発信をさせていただいておりますし、このジョージアの大統領と鍾乳洞同士で付き合いができないかということも、直接苑場さんのほうから大統領に申されたということもお伺いをいたしております。

また、来年1月には、美祢市内の小学校、中学校におきまして、児童の方や生徒の方に直接切り絵制作の指導を行っていただけることも伺っております。

また、苑場凌さんにおかれましては、市民の方々に、美祢マンガ塾を開いていただいていることを初め、美祢市を舞台に物語が展開をします内田康夫氏原作の浅見光彦ミステリースペシャル「汚れちまった道」の作画に本年取り組まれまして、ちょっと前です、11月の、先月です、28日に発売になりました。これは、書店、本屋さんのもとより、全国のコンビニの本の欄とかがあります、あそこに売ってま

すんで、どうか市民の方々、市内の本屋さんなりに行かれまして、まず、立ち読みからでも結構ですが、すばらしいです。市内の桜山、それから宇部興産のセメント工場、そしてこの美祢市役所の前、漫画なんかに大きく何遍も何遍も出てくるということで、見られて、「おー、これが日本中の書店、コンビニに売られるんか」と、恐らく皆さん驚かれると思います。

実は、先ほど岩城法務大臣のことを申し上げましたけど、昨日です、漫画本持っていきました。大臣ですね、いきなりお会いして漫画読んでくれというのも御無礼だけでも、実はこれこれこれで、この社会復帰促進センターのことも大きく取り上げられておりますし、また、苑場さんそのものが「あずさ弓の如く」ということで、飯沼貞吉さんという白虎隊の生き残りの方を美祢市で守られて、そしてその後通信省におわせになったということ。で、飯沼貞吉さんのお名前を出しましたら、大臣がよく知っておられました。それは、薩摩と会津を超えてこういう関係があったかと、大臣びっくりしておられました。で、今の「あずさ弓の如く」の漫画と、それから先ほど申し上げた「汚れちまった道」の漫画と両方渡したら、これから読む物、車の中で読ましていただくということをおっしゃっていただきまして、大変ありがたいです。

○議長（秋山哲朗君） 市長、薩摩じゃない、長州。

○市長（村田弘司君） おお、薩摩じゃなかった。（笑声）ちょっと私、テンションが上がってくると、時々頭の中で考えちよることと言葉が違うことを言うことがありますんで、もし気づかれたら言うてください。時々ありますから。決してうそをついてるわけじゃないです、間違えちゃうんです。失礼しました。長州と会津ですね、そうです。

このように美祢市ふるさと交流大使の方々は、おのおのの活動におかれまして、美祢市を大きくPRいただいております、今後も美祢市の情報発信と魅力向上を図るために、美祢市ふるさと交流大使と大きく連携をしまいたいというふうに思っております。

また、美祢市ふるさと交流大使の方々のほかにも、市外で御活躍をされておられる本市出身者がいらっしやいます。このため、本市出身者と情報交換をすることも大切だと考えておまして、関東、それから関西で開催をされる県人会や同窓会などに職員を派遣いたしまして、本市の状況をお伝えするなどの情報交換を行うとと

もに、新たな人的ネットワークの形成にも努めておるところであります。

ちょっと長くなりましたけど、20分程度一息にお答えしたということで、大変申しわけなかったですけど、一応これで御質問に対する回答といたします。

○議長（秋山哲朗君） 荒山議員。

○14番（荒山光広君） 市長のいろんな思いを聞かしていただきました。先ほど西岡というお話もありましたが、決して私は市長に出るつもりもございませんので。

（笑声）

今、ジオ活動、ジオパークのお話もありました。美祢市は、今、お話の中にありましたように、他に誇れるいろんな自然、また資源、いろんな人材含めてたくさんあるというふうに改めて認識をしたところでございます。

ジオ活動につきましては、9月に認定以来、それまでもですけども、いろんな市民の方の活動が展開されております。特に、江原のウバーレの地域では、非常に何か活発に活動されておるといふようなことも聞いております。

また、この12月の5日には秋吉台国際芸術村でジオフェスティバルというものも開催されるようでございますので、市民の皆さんもたくさん行っていただきたいなあといふふうに思います。まさに、これは、市民の力が今試されておるところであるというふうに思います。このジオ活動を充実することで、他から見て美祢市はいろいろやってるなということもしっかりとPRしていただきたいというふうに思っております。

それから、今の日本ジオパークに限らず、世界ジオパークを目指してはどうかということについては、後ほど徳並議員のほうからまたいろいろとお話があるかというふうに思っております。

人材の面で、ふるさと交流大使、今、市長のほうから3名の方の御紹介がありました。特に、苑場さん、今、旬でございまして、「汚れちまった道」、私も読まさせていただきました。その中でちょっとびっくりしたのは、苑場さんは当然プロです。絵も上手なんですけど、その背景といいますか、その背景を今矯正施設のセンター生が描いてるということを紹介されておりました。これは本当びっくりしたんですけど、いろいろ練習もされたんでしょう。非常に緻密な絵を描かれているということで、また漫画を通じてその矯正に寄与されてるんだなということも改めて感じたところであります。

また、入山さんにつきましては、先ほどありましたように、いろいろと活躍されております。実は昨年、和歌山の紀淡海峡ですか、そこを……まあ歌を出しておられますけども、我々新政会で視察に参りました。私はちょっと事情があってよう行かんやったんですけども、そこで紀淡海峡のカラオケ大会というのをやられて、紀淡海峡を望む岬で、その紀淡海峡を全国から集まった人が喉を競うというふうなこともやっておられたようでございます。

美祢市も、「秋芳洞愛歌」というものを歌っておられますので、可能かどうかは別にして、全国秋芳洞愛歌のど自慢とか、カラオケ大会、秋吉の花火のときにでもやれば、また別の意味で盛り上がるんじゃないかなというふうに思っております。

それから、久保修さんについては、今いろいろお話がありましたように、「紙のジャポニスム」というテーマで世界各地で展覧会を開催されております。ことしだけでも4月には、4月25日から5月15日までキューバのハバナというところで展覧会をされております。先ほど話にありました10月の6日から18日には、トルコのイスタンブールで開催されました。

この展覧会は、皆さん御承知と思えますけども、和歌山の串本沖で1890年ごろにエルトゥールル号の遭難事故というのがありまして、それから125年たったということで、実はその125周年の記念事業の一環としてイスタンブールで招聘をされて開催をされたというふうにお聞きをしております。

今、この1985年のイラン・イラク戦争のときに、トルコ航空機によって邦人が救出されたということもありました。まさにこの辺も、映画化をされておるといふふうなことで旬じゃなかろうかなというふうに思っております。

それから、先ほどありました11月4日から11日には、ジョージア国で展覧会をされております。そこには、巨大な鍾乳洞がありまして、そこに入ったということで、写真を見ると秋芳洞と規模的に、写真だけですので判断できませんけども、まあ同等ぐらいの規模があるんじゃないかなと。写真を見ますと、秋芳洞のようにライトアップをされて非常にきれいな様子がうかがえます。それと、規模は違いますけども、入るときは歩いて入るんですけども、出るときは船で出るというふうな形で、秋芳洞とは少し趣が違うんですけども、巨大な鍾乳洞を抱えた地域であるということでございます。

それから、今現在は、11月の25日から12月6日まで上海で展覧会をやって

おられます。先日、NHKの全国放送で紹介をされたというふうに思いますので、市民の皆さんも見られた方が多いんじゃないかなというふうに思っております。

併せて、久保さんについては、京都の有名なお土産があります。「おたべ」というお土産がありますけども、先日、副市長からお土産いただきましたけども、そのお土産のパッケージのデザイン、これは四季折々、久保さんが担当しておられます。

それから、ことしの9月にサントリーの、商品名を言っていないかわかりませんが、サントリーの「プレミアム・モルツ」というのがありますけども、これも秋限定で、清水寺を描いたパッケージです。これは、JR東海関係の限定販売のようでございますけども、そういったことで、全国的に久保修さんの切り絵というものは広く知られてきているというふうに思っております。

先日、豊岡というところに、我々新政会が視察に行きまして、ここは世界ジオパーク——山陰海岸世界ジオパークに認定されてますけども、そのジオパーク活動等について視察をしてみました。

で、そこは、やはり周辺の市町が合併して、今豊岡市なんですけども、その中に出石町というところがあるんですけども、そこは城下町でありまして、久保修さんは1980年代に出石町に縁あって、いろいろと深いかわりを持っておられます。昨年の7月に、そこにあります市立美術館で展覧会もされております。そのときに僕ちょっと悔しかったのは、「おかえり！久保修」ってあるんですね。「おかえり！久保修展覧会」、こっちのがふるさとなのに豊岡でおかえり、どういうことかなと思って行ったときにいろいろ聞きますと、随分と若いころに、自分の方針を決めるために悩まれた時期がちょうど豊岡の出石町で、いろいろ住民の皆さんと触れ合う中で、自分の進むべき道も見えてきたということで、久保さんの切り絵も随分残しておられます。

で、しっかり使っておられるなと思うのは、こういった観光協会の方の名刺があるんですけども、これも久保修さんの切られた絵を複数枚それぞれ名刺にされておったり、あるいは久保修さん、きょうはちょっと持ってきてないんですけども、作品をカレンダーにされたり、しっかりと使っておられます。

で、そこで御案内していただいた加藤さんっていうんですけども、久保修さんの話をしますと、「美祢市もしっかり使ってるんでしょ」という話でしたので、残念ながら、なかなかいろんな面でまだまだ今から活躍していただくんだという話をし

ましたけども、「もったいないですね、ぜひいろんな形で協力していただけたらいいですよ」というふうなアドバイスもいただいたところであります。

そういったことで、美祢市のいろんな出身者の方が、いろんな形で美祢市に思いをはせておられるということをおうかがうことができるわけなんですけども、ぜひ、こういった、この3名に限らず、いろんな方とのつながりを持ちながら、美祢市のPR等を深めていただきたいというふうに思っております。

そのためには、美祢市の中の組織上の位置づけと申しますか、こういった人材を活用するためのポジションがどこなのか。今、多分企画のほうでいろいろとされておると申しますけども、ぜひ、今予算の編成をされている時期であります。来年度に向けて、こういった人材を活用する、あるいは動かすためにはある程度の予算も必要と思えます。

今、来年の1月に久保さんこっちに帰ってこられてワークショップ等もやられるというお話ですけども、多分現場では、その人を動かすためのお金と申しますか、どっからひねり出そうかということで非常に苦慮されてるんじゃないかなというふうに思っております。せっかくの機会でございますので、今からいろいろ人を動かすための予算組みもぜひやっていただいて、また、この3名に限らず、例えば、関西地方、関東地方等の県人会などもあるというふうに思えます。最近、市役所のほうからも出向いて行っておられるようでございますけども、そういった方々とのそのつながりを持つために、専門の部署というわけにもなかなかいかないと思えますけども、そういった組織上の位置づけと予算措置等について、何かお考えがあればお聞かせをいただきたいというふうに思っております。

○議長（秋山哲朗君） 藤澤総合政策部長。

○総合政策部長（藤澤和昭君） 荒山議員の再質問にお答えします。

美祢市ふるさと交流大使の予算につきましては、現在、一般財源による事業を実施しているところから、当初予算策定時に見込める経費を予算に計上しております。このため、年度途中の新たな事業実施に対応しづらいこともありますが、美祢市ふるさと交流大使と積極的に連携する観点からも、本市において有意義な活動に対しましては、追加の予算措置も検討してまいりたいと考えております。

ふるさと交流大使活動事業につきましては、現在、企画政策課を中心に行っております。今後、ふるさと交流大使との協働に当たりましては、他課との連携を強化

するなどして、対応してまいりたいと考えております。

○議長（秋山哲朗君） 荒山議員。

○14番（荒山光広君） ありがとうございます。

しっかり検討していただいて、せっかくたくさんの人材がおられるわけですので、有効に活用できるような施策をぜひお願いしたいというふうに思っております。

それでは次に、美祢市は昨年度、後期基本計画を策定されました。

これは、平成21年度に策定された10年間の第1次総合計画の前期基本計画の計画期間が平成26年で終了することから、次の5年間、すなわち平成31年度までを計画期間としております。

この基本計画では、「市民が『夢・希望・誇り』をもって暮らす交流拠点都市美祢市」の創造に向けて、安全・安心の確保、観光交流の促進、産業の振興、ひとの育成、行財政運営の強化という五つの基本目標を立て、国際交流の推進、六次産業化の推進、ジオパーク活動の推進という三つのプロジェクトを展開することによって定住促進をし、自然と調和し、潤いと活力に満ちた安らぎと交流の里づくりを目指しております。

今後5年間は、この基本計画に沿った事業が実施されることとなるわけですが、地域間競争を生き抜くためには、教育・福祉・医療・文化・雇用などソフト・ハード面、両面での幅広い生活環境等の整備が求められ、これらの満足度を高めることがいわゆる選ばれる美祢市づくりとなり、ひいては定住促進につながっていくと思います。

本年度から、既にこの基本計画に沿った事業が始まっております。とかくトリプルエンジンの事業が目立つようですが、本年度事業で地域間競争を生き抜くための面から見たこれまでの成果と、今まさに来年度予算の編成時期に当たり、今後、地域間競争で生き残るための生活環境等の整備について、市長のお考えをお伺いいたします。

○議長（秋山哲朗君） 村田市長。

○市長（村田弘司君） 荒山議員の御質問ですが、もう時間的にそれほどないですからと言いながら、いろいろとお答えさしていただきたいと思っております。

今、おっしゃいましたように、本市は平成27年度、ことしですけれども、美祢市総合計画、第1次総合計画の後期計画を昨年、作成をいたしまして、ことしから

これが大きく動き出しております。国際交流の推進、それから六次産業化の推進、そして三つ目としてジオパーク活動の推進という、この三つをトリプルエンジンとして定住促進に結びつけてまいるといふことにもいたしております。

また、ことし、まち・ひと・しごと創生総合戦略におきましても、この第1次総合計画、後期計画をベースといたしまして策定をいたしました。先ほどの御質問でもお答えをいたしましたけれども、本市は他市にない大きな魅力を持っておる。資源にしろ、景観にしろ、人材にしろ、大きな魅力を包括しておる、抱合しておると、私は自信を持っております。

これらを最大限に利用活用するということ、そしてこれらの強みを、他市との、言葉はちょっといやらしくなるかもしれませんが、よく差別化という言葉が使われますけれども、違うところを引き出していくということ、それを魅力あるものにするということ、そして市民の方々に、これも先ほど申し上げたけれども、美祢市のよさを実感をしていただく、認識をしていただくということ。

このことなしに、今までお住まいの若い方が一遍出て、帰ってこられることもありませんし、よそから美祢市にどうか住んでみないかとお呼びかけをしても住んでいただけることはありません。ですから、美祢市に住みたいと思う方をふやしていくこととしております。

このような中で、国際交流の推進におきましては、少子化におきまして国内の修学旅行生が非常に大きく減少いたしてきております。特に、秋芳洞観光におきましては、かつて大きな修学旅行観光客が毎年訪れて来ていただいておりますけれども、これが大きく右肩下がりでどんどん少なくなってきておると。これが、秋芳洞観光の大きなダメージを与えた要因でもあります。

今回、ジオパークになったということで、その地質資源、地球資源を大切に、それを守り育てるといふこの理念、これは修学旅行に大きく寄与できるんじゃないかということで、今、全国の学校から大変な引き合いが来ております。

先日も私、秋吉台のロイヤルホテルに行きましたら、たくさん修学旅行生の方が来ておられました。で、引率して来られた教頭先生にお伺いをしたら、ちょうどお話できましたんで、やはりジオパークになったということでここに連れて来たということをおっしゃっていただきました。ですから、今後、この修学旅行生を美祢市に導き入れるということは、小学生、中学生の方々が、この美祢市を認識してい

ただくことにもなります。

で、将来的にそのことが、Iターンとか、ここでいつとき暮らしてみたいとか、また観光に訪れたいとか、そういうふうな種をまくことになりますから、大きな要因にもなります。観光事業のお金を得ることにもなりますけれども、将来を見越したときにはそれが大きな種まきになりますので、今後この辺もやっていきたいということ。

そして、それを補完をするために、日本の総人口が減ってますので、それを補完をするために外国の方々をいかに、今もう美祢市だけとは言いません、私は。山口県、日本国に導き入れるかということが、日本全体、山口県全体、美祢市全体の活力を維持できることにつながるというふうに確信をしております。これはもう、安倍総理も同じお考えですし、県知事の村岡さんも全く同じお考えです。

ですから、ひとり美祢市だけがいいことをしようという観念では、もう美祢市は生き残れません。美祢市は山口県の大きな観光資源を持っておるし、ジオパークでもあるし、我々一生懸命やるからともに手を携えてやろうよということを今、県にも申し上げておるし、いろんな他市の市長にもその話をさしていただいています。皆さん乗っていただいています。今後そのことをつなげて、着実に成果を上げていきたいというふうに考えてます。

先週、周南市の木村市長とお話をしました。木村市長が、「村田市長、台湾の方を導き入れることがどんなに効果があるかということがわかった」と。ついては、これから周南市も台湾の方を周南市に導き入れる本格的な活動をしたいから、美祢市に先生になってほしいということで、懇願を受けました。「いいですよ」と。「山口県の中で大きな面として動けば、それがそれぞれにとってプラスに働きますから、やるよ」ということを申し上げて、そのこともお約束をさせていただきました。今後、そのことは大きな広がりを持つてくると思いますので、どうか御理解を賜りたいと思います。

さらに、このさくら公園で美祢ランタンナイトフェスティバル、青年会議所の方々を中心に、市内の若い方々が本当に汗をかいていただいて、ことし第2回目を実施することができました。これこそ国際交流のあかしだろうと思いますし、また市民の方々が、みずからの力そして知恵によってどれほどのことをなし得ることができるかという自信にもつながったと思います。

そして、台湾政府そのものからも大きな評価をいただけてますし、美祢で台湾のランタンフェスティバルを、そこで使われたランタンをこちらのほうにただで送っていただいて、ここでやるということがどれほどお互いの環境、距離を縮めていくかということにつながりますから、今後台湾からのお客さん、これ倍々ゲームで美祢市に入る方ふえてますけれども、将来的にはもっと大きくなると思います。

こういうことも含めて、恐らく周南市の木村市長は教えてほしいとおっしゃったんだろうと思いますけれども、恐らく青年会議所のほうにも周南市のほうからのアクセスがあるかというふうに思っております。いろんなことで効果を上げていきたいし、また美祢市の未来のために成果を導き出していきたいというふうにも考えております。

また、六次産業化につきましては、これは観光立市とも大きく関連しておりますけれども、先ほど申し上げた、美祢市はすばらしい田畑、山でできた一次産品をいかに加工してそれに付加価値をつけて買っていただくことによって、美祢市の農業をやっておられる方、またその加工業をやっておられる方々にお金を生み出していくかということもやっていきたいということで、ミネコレクションを今、地域ブランドとしてやっています。

村岡知事とも話してますけれども、山口ブランドというものが一つあります。それとミネコレクションをダブルネームで一つのパッケージに載せてもらうということで、美祢市の発信、山口県の発信にしていきたいなということを二人で話しました。ですから、二つの認定がされたということが載っているのがいかに大きな価値があるかということ国民の中に位置づけていきたい。これは出口をつくっていくことです。売り先をつくっていくことになりますので、このこともやっていきたいということにも考えております。

また、今、ふるさと応援寄附金というものもありますけれども、これにもこのミネコレクションを使わせていただけてます。これによって大きくふるさと応援寄附金がふえておまして、今書店に行きましたら、ふるさと応援寄附金専門の雑誌が何冊も出てますけれども、その中でもベスト10、全国でベスト10とか、上位にこの美祢市のふるさと応援寄附金のミネコレクションが取り上げられるということで、ミネコレクションがまた日本全国に発信ができておるといふことにもなっております。

また、ジオパーク活動の推進につきましては、これは先ほどの美祢ランタンナイトフェスティバルと同様に、このことが今、日本ジオパークになり得たということは、行政ももちろん努力をいたしましたけれども、一番大きかったのは、やはり市民の方々がみずからでやってみようというふうになっていただいたということ。前も申し上げたけども、祝賀会するとき、民間の方々、南さんという方が主催者になられて祝賀会やられました。私も御招待受けて行きましたけれども、実に37の市内の団体が集まって大変盛り上がりの祝賀会ができた。

それは裏を返せば、このジオパークをなし得たということは、美祢市内いろんな方々いろんなグループの方々が、よし、このことをもって美祢市を元気にしようと、美祢市に誇りを持とうと、それを未来につなごうという思いになっていただいたということだろうと思います。ですから、大きなジオパーク活動というのは、美祢市の未来の希望に対する種をまいたというふうに思っております。

一方では、先ほどちょっとそういう言い方はされませんでしたけれども、市民の安全・安心のことが置いておられるんじゃないかという誤解を与えちゃいけないというふうなことでの御質問だったんじゃないかと思います。これはもう当たり前ですね。というのが、先ほどから美祢市の未来に対して市民の方々が自信を持つこと、そのことなしに未来はないし、また市外から入ってこられないし、若い方が戻ってこられませんよということ。ですから、中長期のこのビジョンを持って、私はいろんな、先ほどのトリプルエンジン等を取り組んでいます。

一方では、今現在お暮らしの方々にとってこの美祢市は住みづらいということでは大変なことになります。また、子育て環境をつくっていくことがおろそかになっておるようでは、現実的に夢物語になりますから、例えば、この私自身の政策理念によりまして、美祢市独自で18歳以下のお子さんが2人以上いらっしゃる御家庭においては、所得制限を設けることなく第2子の保育料を一律半額にする。また、第3子への保育料については、完全に無料にするということもやりました。これは大変大きなお金がかかりましたけれども、将来の美祢市のため、これは美祢市単独のお金でありましたから。数千万円のお金がかかっていますが、それは毎年要ります。しかしながら、美祢市の未来につなげるためにこの保育料の軽減措置は決断させていただきました。これをやっていきたい。

それと、何より、今美祢市には美祢市立病院と美祢市立美東病院と二つの市立病

院があるんですよ。これ、市民の方は当たり前とっておられるからこれはありがたいです。当たり前とっておいていただきたい。しかしながら、外から見たときに3万を大きく切る美祢市の人口で二つの市立病院を持つておるとするのは美祢市の奇跡と言われています。一つの市立病院ですら持つことが困難ですね、3万くらいの市では、人口が。それを二つ維持しておるとするのはどうしてできるんだと。何かマジックがあるんだといったことをおっしゃいますけれども、実はそれは、美祢市民の方々が東京都の23区の4分の3にもなる広大な面積の中に、実は3万弱の人口しか住んでおられない。だからこそ、そして高齢化が進んでおるから、だからこそ、この二つの市立病院を死に物狂いで維持するというこの覚悟でやっておるから今できておるということ。

そして、病院サイドは、きょうも高橋管理者、来ておられませんかね、大きな御理解を得て随分コストダウンしてます。コストダウンしてます。そしてスタッフの方々が努力をしていただいて、そしてこの二つの市立病院が維持できておるということ。そして一般会計でも支えるという形をとっておるということ。このことなしに、安全な安心な美祢市の環境はないというふうに思ってますんで。

放っておいたら、手をこまねいて私が、「はあ、ええよ、適当にやってくれ」と言うたら、二つの市立病院ところじゃない、二つの市立病院ともなくなります。そのぐらい努力しないとこの二つの市立病院は保てない。しかし、そのことを市民の方々に、さあ大変だということを申し上げたら市民の方々は不安になられますから、当たり前のように美祢市立病院と美東病院が今存在してます。だからいいんです。

これからもドクターの誘致を含め、一所懸命汗をかいてまいりたいというように思っておりますし、また子育て環境でいえば、先ほどランタンナイトフェスティバルの話をさせていただいたけれども、第2回目のあれに間に合うように、そこの大型遊具を設置をさせていただきました。それは市内でお子さんを持つておられるお母さん方とお話をさせていただいたときに、私どもの子供は長門のルネッサながとの遊具のところへ連れてっておるといふふうにおっしゃいました。私は負けん気が強いのですから、くそーと思いました。ああそうか、数千万のお金はかかりますけれども、これは未来に対する投資だなど。

だから、単独市費でも市民の方々の御理解があれば、美祢市で子育てをするのに非常にいい環境だということがわかれば、この美祢市に住んで子供を育てるといふ

気になっていただけるだろうということで、このランタンナイトフェスティバル、そりゃまた市外からランタンナイトフェスティバル、たくさん来られますから、その環境を知っていただきたいということで、あの日に間に合うようにそこに設置をして、市民の方々、市の子供さん方、そして市外の方々も、ああすばらしい遊具があるなということをおわかっていただきました。

そして、今は美東の道の駅に今年度中に設置しますから、もう改修してます。同じような物が美東の道の駅にも設置をされます。恐らく、美東の子育てを一所懸命やっておられるお母さん方、お父さん方、おじいちゃん、おばあちゃんも、道の駅に行かれたら、美東の、一日くらい楽しく過ごせるような環境ができるというふうに思っております。

また、ミニバスも運行しておりますけれども、ことしがこの10月から大嶺町西分それから東厚保町川東地区においてミニバスの運行を開始しましたけれども、もう市内で7地域、7エリアでやっています。これ私が市長になる前に公約として掲げたもの。お年を召した方が買い物にも病院にも行けない。足を確保するというところで、公共交通協議会というものを立ち上げて、国が関与してもらってひいきでここを先にやれとかいうのではなしに、大きく美祢市全体を見て、こっからやったほうがいいよ、ここはやりやすいよということで、フラットな平等な目で今、逐次エリアを広げていっています。

美祢市内に毛細血管のように、幹線道路のバスだけじゃない。バスだけでも1億3,000万円ほどの補助金を出して運行していただいていますけれども、それとは別に毛細血管のように山の中のほうにデマンド型のミニバスで、安い料金で行っていただくということを今やっていますから、これまだ広げていきます。そういう形で住環境をよくしていきたいというふうに思っています。

それから、美東、秋芳の水道水の軟水化、これも随分ありました。これは言葉では簡単だけれども、そんなに簡単なものじゃないです。国の認可も要りますし、そして用地の確保も要りますし、それに何よりも大きなお金がかかりますし、いろいろなことがありましたけれども、もう美東は今、工事に入っていますし、秋芳はもう設計段階に入ってます。これがもう、いずれも具体的な形として軟水化された水を美東、秋芳の方々に飲んでいただける環境をつくるために、今もう一歩じゃない、2歩、3歩も進んでいますから、そういう形で生活ベースをつくり上げようという

ふうにしてます。

そして、今議会の予算補正におきまして、国の生涯活躍のまちづくり構想に基づくCCRC、この市民生活の環境を向上するための着手を開始をいたします。

いずれにいたしましても、財源そのものが限られておるといよりも、今は毎年地方交付税が2億円から3億円減ってきてます。毎年そのぐらい穴があいてます。それをどういうふうな財政規律によって美祢市の市民の方々に不安を抱かせないように、今の生活基盤よりも落とさないように、お金をどこにどういうふうに使っていけば、先ほど申し上げたように誇りも失わずに、そして未来に希望が持てるかということを常に考えながら財政運営はやっていきます。そして、来年度予算につきましても市民の方々の生活をお守りする、そして未来に対する希望をお見せするというスタンスをもって、厳しい財源です。しかしながらそれで組んでいきたいというふうに思ってます。

ちょうど1時間、全体でたちました。前ですけども、これで答弁とさせていただきます。

以上です。

○議長（秋山哲朗君） 荒山議員。

○14番（荒山光広君） ありがとうございます。もっとやりたいことがあったんですけど、もう1分ぐらいしかありませんのであれですが、今、市長の話の中にもありました地域間競争を生き抜くためには、やはり美祢市単独での事業も大事ですけども、やっぱり近隣との連携というものも非常に大切になってくるというふうに思います。それから、地域間競争を生き抜くために、やっぱり他から選ばれるためには、今お住まいの皆様が、美祢市はいいねというふうな思いになっていただくことが大切であろうというふうに思います。

併せて、人口減少については、今結婚されない方がたくさんおられます。これはどこの自治体でもいろんな悩みの種になっておりますが、全国的にも自治体そのものがこういった婚活に対する支援というものをやっているところもございます。

美祢市では、以前にハッピーウェディングという事業で、青年会議所が一生懸命やっておられましたけれども、なかなか追跡調査ができなくてどういう結果になったのかというのがわからないんですが、ほかでは昔はおせっかいなおじさん、おばさんがおって、見合い写真を持ってあちこち飛び回っておられたおじさん、おばさ

んがおったわけですけども、自治体がそういった、いわゆるおせっかいな人を育てるといふような事業もやっておられるところがあります。そういったこともやりたかったんですけども、きょうはちょっともう時間がございませんので、次回に回したいと思いますけれども、いずれにしても、今から激しい地域間競争がますます高まってまいります。

美祢市として、先ほど来から市長の答弁にありますように、美祢市にある資源、あるいは自然、人材、そういったものを生かしながら、夢と誇りの持てる美祢市づくりにますます邁進していただくことを祈念いたしまして、私の一般質問を終えたいと思います。ありがとうございました。

○議長（秋山哲朗君） この際、暫時11時15分まで休憩をいたします。

午前11時02分休憩

午前11時14分再開

○議長（秋山哲朗君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

市長より、発言の訂正がございますので、発言を許可します。村田市長。

○市長（村田弘司君） 先ほどの荒山議員の御質問の際に、私がジョージアに行かれたのが苑場凌さんという言葉を使ったようですが、頭の中では久保修さんですから。久保修さんが行かれましたんで、この場をおかりして訂正をさせていただきたいと思います。

それと、議長よろしいですか。

○議長（秋山哲朗君） いいですよ。

○市長（村田弘司君） 先ほど、苑場凌さんが書かれた漫画が今書店、コンビニに出ていると申し上げましたけれども、こちらですね。これをお見かけになったら、ぜひとも見られていただきたいと思います。本当に美祢市がいっぱい載ってますから。素晴らしいですよ。いい美祢市の発信だろうと思ってますから、御参考までに。最後のシーンも、これが宇部興産の伊佐セメント工場ですね。そして、これが桜山の展望台です。こういう形でいろいろ載ってますので、どうか。要らんこと申し上げました。

以上です。

○議長（秋山哲朗君） 一般質問を続行いたします。岩本明央議員。

〔岩本明央君 登壇〕

○10番（岩本明央君） 皆さん、こんにちは。私は純政会の岩本明央です。平成27年12月定例会での一般質問を行います。

質問内容は通告書のとおりで、大項目の美祢市の今後の農業振興についてと、小項目1の農業法人への指導、援助、補助などについて、小項目2の美祢市独自の水稻戸別補償制度の創設についてを村田市長に質問、お願い、提言を申し上げたいと思います。

最初は、美祢市の今後の農業振興についてです。長い間の懸案事項であったTPP（環太平洋連携協定）は、太平洋を取り巻く12カ国により締結され、関係各国に持ち帰り、国会の承認を得て、施行、実施されることと思います。

そこで、日本国、国民の中で、TPP締結により最も悪影響を受けるのは農業関係の業界だと思います。次に、知的財産関係、これは著作権とか保護期間、著作権侵害等や、その次に、外国人雇用関係等もあります。逆に、最もよい影響を受けるのは、輸出産業の自動車産業や電機産業だと思われます。日本国全体として考えた場合、やむを得ない面もあるかもしれませんが、我々農業関係者としては納得のいかないことばかりです。

政府及び自民党は、TPP対策に向けて、一番影響を受けるであろう農業についていろいろな対策を検討し始めています。農業は裾野の広い産業で、種・種子産業、化学肥料産業、化学薬品産業、農機具・機械産業、石油精製産業、金融・共済・保険産業、六次産業関係、これは今推進しておられます生産・加工・販売等ですが、さらに健康産業、食品、食材など、農業には多くの産業と深い関係、関連があります。

また、全世界で日本の食材、食品は最も注目され、絶大な信頼を受けています。今後は、日本産の農産物を買求める外国人が特別増大すると思われます。

人間生活の源、健康づくりは、安全・安心が基本であると思います。

ただいま申し上げましたように、農業は将来を大いに見通せる、さらに希望のある産業だと私は考えています。

一般的なことはこのぐらいにしまして、美祢市の農業について、現時点で大きい問題点を具体的に説明し、村田市長の今後の御方針についてお尋ねをいたします。

小項目の第1は、農業法人への指導、援助、補助等について質問をいたします。

農業法人への援助、補助は、ハード面で農業機械の購入等が一番大切であることはもちろんですが、最近、ソフト面での指導、援助が不足しているのではないのでしょうか。27年度の主要農産物の水稻、麦、大豆等の収穫量は、相当低下していると思います。現に、ある農業法人が栽培されている圃場を見せてもらおうと、余りにもひどく、気の毒なような思いがします。同じ時間、労働力、経費等がかかるのであれば、少しでも多くの収量、収穫を上げたほうが経営的に寄与するのは当たり前のことです。経営面や栽培技術など、新しい情報を多く、深く指導をお願いしたいと思います。

国内先進地農業法人の一部では、経営面、財政面で苦しい法人も出てきていると聞いております。また、九州では農業法人が合併して、経営面積が800ヘクタール規模の大農業法人になったと報道されています。

以上のような現実や報道を目にしますと、市内農業法人の合併も視野に入れた指導が必要と考えますが、いかがでしょうか。県農林事務所さんやJA山口美祢など、連携、協力して、ソフト面での指導に力を入れてほしいのですが、いかがお考えか質問をいたします。

小項目の第2は、美祢市独自の水稻戸別所得補償制度の創設です。この項目は、最初の小項目と関連します。

国の戸別補償制度は、平成22年度から25年度までの4年間は、1反、1反10アールですが、1反当たり1万5,000円の補助金がありました。名称は変わりましたが、平成26年度から29年度までの4年間は、補助金額が1反当たり7,500円と半額になり、その減額分を美祢市独自の制度を創設され、補助をしてはどうでしょうか。

具体的な数字をお示しし、私の考えを申し上げたいと思います。

美祢市の水稻作付面積は、平成24年度は1,956ヘクタール、平成25年度は1,977ヘクタール、平成26年度は1,905ヘクタールです。JA山口美祢の米販売数量は、平成24年度9万4,574俵、平成25年度8万8,985俵、平成26年度は8万5,171俵です。

以上が具体的な数字です。このほかの数字は省略させていただきます。

農業法人や小規模農家は、生産されたほとんどの米をJA山口美祢を通して販売されておるのが現状です。さらに、大規模農家は、自販されたあとの米の多くをJ

A山口美祢を通して販売されております。

そこで、JA山口美祢を通して販売された米1俵に対して1,000円を補助されたら、1反当たりの生産量、収穫量約7.5俵として、1反当たり7,500円の補助金が必要になります。この美祢市独自の戸別補償制度を創設されると、平成26年度以降半分に減額された金額の一部補填になると思います。この制度は、TPP対策での米価下落の下支えになると考えます。

先にお示ししました表のとおり、JA山口美祢の年間販売数量は8万5,000俵から9万5,000俵までで、美祢市内の年間総生産量の53%から60%ぐらいになります。1俵1,000円の補助金で1年間多くて9,500万円ぐらいの補助金が必要だと考えます。この額は、本市一般会計164億円の1,000分の5.5、パーセントでいいますと0.55%になります。この制度を創設され、28年度予算に組み入れていただくよう、強く、強く要望いたします。

以上で、壇上からの質問を終わりますが、答弁の内容によっては発言席から質問させていただきます。

〔岩本明央君 発言席に着く〕

○議長（秋山哲朗君） 村田市長。

〔市長 村田弘司君 登壇〕

○市長（村田弘司君） それでは、岩本議員の美祢市の今後の農業振興についての御質問にお答えをいたしたいと思っております。一括質問一括答弁方式ですので、壇上より答弁をいたします。

まず、集落営農法人への指導、援助、補助等についてであります。

中山間地域の本市におきましては、高齢化の進展や担い手不足の深刻化等に対応するため、集落総参加による集落営農法人の育成を進めるとともに、はだか麦、大豆等の産地育成に取り組んでいるところであります。この結果、23の集落営農法人が既に設立をしていただいております。現時点で法人による農地の集積率は、全体の約20%を占める状況になってきております。

しかしながら、米価の急落等は法人経営に深刻な影響を与えるとともに、法人のリーダーの固定化と高齢化が進む中、近い将来、法人の運営に支障を来すことが懸念をされております。

こうした中、一つ目に、限られた人材を生かすことのできる営農体系の整備、二

つ目として、法人収益の改善、三つ目としまして、法人後継者確保に向けた取り組みを課題と捉えまして、全ての集落営農法人が参加をさせていただいております美祢地域集落農業法人協議会が主体となって、栽培管理等の意見交換会の開催や中長期計画の作成支援等の取り組みを進めているところであります。

また、栽培技術等の指導につきましては、美祢農林事務所、山口美祢農業協同組合及び本美祢市で組織をいたします美祢地域農業改良普及協議会を中心に、各集落営農法人に出向きまして、試験圃場設置によるさまざまな調査試験、排水対策・栽培管理研修会などを行っているところであります。特に、麦、大豆の畑作物におきましては排水対策が重要ですが、額縁明渠等の指導を行うとともに、浅層暗渠——これは浅い層という意味ですけれども、浅層暗渠排水による水田の高機能化対策にも取り組んでいるところであります。

今後も関係機関と連携し、栽培技術向上の指導を行い、水田の高機能化などに取り組むことに加え、県事業の活用による機械等導入に対する支援、経営安定のための契約栽培に係る「はじめてみ～ね野菜チャレンジ事業」、また、新規農業者の掘り起こしのための、はじめてみ～ね——これは全て「美祢」という言葉をもじっておりますけれども、農業応援事業等を独自に実施しまして、引き続き支援をしてみたいというふうに考えております。

次に、美祢市独自の水稻戸別補償制度の創設についてというお尋ねでありました。議員御承知のとおり、国の経営所得安定対策の米の直接支払交付金は、平成22年度から導入されまして農業者の所得となったことは間違いありませんが、国のお考えといたしまして、一つとして、高い関税により守られている米に対して交付金を交付することについて、他産業に従事している方々に理解していただくことが困難であるということ、二つ目といたしまして、安定的な販路を切り開いて経営を発展させる道を閉ざしていること、三つ目として、農地の流動化のペースをおくらせる、これは全て国のお考えですけれども、これらの問題があるということのために、国においてこれらは廃止をされたところであります。

一方、この廃止に伴います振替・拡充といたしまして、一つには、多面的機能支払の創設、二つ目として、水田有効活用対策の充実、それから三つ目として、農地集積、これは農地中間管理機構の創設なんです、これの拡充を行うこととされたところであります。

この従来の制度を廃止するに当たりまして、農業者への影響を考慮して、平成29年産までの4年間は経過措置を講じることとされております。

本市のこの事業による交付金の状況につきましては、10アール当たり1万5,000円交付された平成25年産におきまして、交付対象者1,766人、交付金額約2億6,500万円、10アール当たり単価が7,500円に減額された平成26年産におきましては、交付対象者1,692人、交付金額約1億2,700万円となっております。この差額の1億3,800万円、そして平成30年産からこの交付金が廃止されますと、約2億6,500万円の交付金がなくなることとなります。

また、先ほど議員のほうから御提案がありました1俵1,000円を単独に市で補助金出したらどうかというお話がありました。これ、市で試算をしてみますと9,500万円、ですから約1億円この財源が必要となります。この全額あるいは一部を負担することは、市の財政状況、他産業との均衡から総合的に勘案いたしますと、また国が今まで負担をしまいいりまして、TPPのことについても国がいろいろなことでその下支えをするということを国の政策として今出しておられます。このことを単独市の財源のみでやるということは、その財源の確保は非常に——大変困難といったほうがいだろうと、そういうふうな状況にあらうかというふうに考えております。

国の制度は廃止されますが、本市におきましては、美祢市農業の将来を見据え、基幹産業である農業振興のため、農産物のコスト低減や園芸作物の導入等の取り組み、それから所得増大を図るための市内農産物の需要拡大の取り組み、新たな人材や経営体の確保育成、または生産体制の強化、あるいは生産基盤の整備と資源の有効活用を推進するため、各種事業、また、国が振りかえ・拡充された多面的機能支払事業、中間管理機構の創設などの推進を山口美祢農業協同組合とも連携しながら、積極的に行ってまいりたいというふうに考えておりますけれども、この山口美祢農業協同組合、実は平成32年をもって、県下の農協全てが県1農協に統合される方向で今動いております。

先日も、山口県の全農の会長の山本さんともいろんな話をさせていただきましたけれども、TPPの後、全国の農業は大きな転換点を迎えていますので、そのことを含めまして、もう1市とか1町の農協、また連携体制ぐらいでは対応できないとい

うお考えですね。ですから、山口県が1本の農協となってこれからその体力を強め、いろんなことを考えていこうと、みずからのことで考えていこうと、農家の連合体である協同組合の農協として考えていきたいということです。

これは同じ流れがもう既に、情報として入ったのは広島県でもやられようとしておりますし、たしか高知県でもやられようとしておるといふふうに聞いております。ですから、恐らくこれから全国の県レベルで相当の数にありました農協が統合していくというのは、うねりのように進んでまいるというふうに思っています。

山口県はその中でも恐らく早い時期での統合農協になろうかと私は認識をしておりますけれども、ですから今後、私どもは基礎自治体として、そして農協は合併農協といいますか、1県1農協になりますので、こちらのほうとそれぞれの市なり町がどういう形で農家の方々を支えていくか、また未来の農業に対してどういうふうなビジョンを示していけばいいかということも考えていく必要があると思います。

これは、いずれにしましても国の考えが大きく影響いたしますので——農業につきましてはですね——国の動向等も十二分に見させていただきまして、我々美祢市の農業は、先ほど荒山議員の御質問にもお答えしましたけれども、すばらしい田畑という言葉を使わせていただきました。この日本国のベースたる、美祢市のベースたる田畑が廢れることのないように最大限の努力をしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（秋山哲朗君） 岩本議員。

○10番（岩本明央君） いずれにせよ、美祢市の農業をいかに振興するかは、お互いみんなが知恵を出し合い、協力、努力しなければなりません。

そこで、私からの提案を申し上げたいと思います。

今、全国の自治体でふるさと納税が盛んに行われています。これは、応援したい自治体に現金を寄附すると、納税者の居住地の税金が軽減され、さらに、すてきなお返しの品がもらえる仕組みです。平成26年——2014年ですが、の寄附金が一番多かったのは長崎県平戸市で約13億円、2位は佐賀県の玄海町で約9億3,000万円、3位は北海道上士幌町で約9億1,000万円です。トップ10の自治体は、魅力ある特典や品を複数そろえ、ネットを使ったPRに熱心なことが共通していると報道されています。平戸市の額約13億円は、美祢市一般会計約

164億円の8%に値します。全国的にお礼の品ベスト3は、肉類、魚介類、お米だそうです。

しかしながら、最近、納税者に対し、いろいろな品をお返しすることが自治体間で競争になっている状況であり、総務省は高額な商品の提供を自粛するよう要請しています。これがこの新聞の切り抜きであります。

一方で、ふるさと納税は、ことし4月から安倍政権の掲げる地方創生の一環で、軽減される税金の上限が2倍になり、寄附額の大幅増が見込まれると報道されています。これが新聞の切り抜きであります。

新聞報道や美祢市の状況から判断して、ふるさと納税への御礼の品全国ベスト3のうち、牛肉とお米は美祢市ブランドとして全国に十分通用しています。一例として、先日のJA農業まつりで牛肉は飛ぶように売れ、開店後約1時間で完売されました。今後は、全国にネットを使ったPRをされ、美祢市の農業振興にも御尽力をお願いします。

さらに、JTBさんが御礼の品を発送される中へ、観光振興のための美祢、秋吉台ジオパーク、これパンフレットですが、秋吉台、秋芳洞、大正洞、景清洞等の入洞割引券やチラシ、パンフレット等を必ず入れていただくようお願いされておられますかどうかお伺いをいたします。

○議長（秋山哲朗君） 村田市長。

○市長（村田弘司君） 岩本議員の再質問ですけれども、ふるさと納税にかかわるお返しと申しますか、これ今、政府のほうから余り高額なものは無駄になるんじゃないかというようなことをおっしゃいましたけれども、実は私の考えはちょっと違うんですよ。今、お返しする中に美祢の肉を使ったらどうかとおっしゃいましたけれども、実はもう既に美祢牛はお送りしています。金額も、我々の人口規模にすると大変大きなお金を寄附していただいています。

先ほど荒山議員の御質問にも答えましたけれども、このふるさと納税にかかわる本が3誌、4誌出てますね。その本によって取り上げ方が違うんですけれども、金額の多寡で出しておるところもありますが、美祢市がなぜベスト10に入ってきたかという、うちがお出ししておるものが非常に魅力的だということで、大きく写真入りで取り上げたものもありました。私、書店で確認しましたから間違いありません。

これも先ほど申し上げたように、美祢の農林産物を加工した六次産業産品、ミネコレクションですね、地域ブランド、これを納税をいただいた方にお送りしておりますし、美祢のすばらしいお米もお送りしてありますし、美祢の牛肉もお送りしてありますし、ですから、美祢の持つておるすばらしいこの農林産物、また加工品をお送りするということ。

これがなぜ、このちょっと先ほど言われたこととちょっと違うなといいますと、実は美祢のこの肉とか、それからミネコレクションのいろんなすばらしい商品がありますよね。それを「さあ、美祢市に来て買ってください」と、観光者の方は買ってくださいます。しかしながら、広く日本中にそれを買っていただくというのはなかなか難しいです。

私はちょっとさっき出口ということ申し上げたけれども、今JTBという先ほど言葉を使われましたけれども、JTBという日本で最大の旅行会社に、我々は日本で2番目やったかな、タイアップしまして、このふるさと納税にかかわりました。ですから、JTBで出しておられる大きなパンフレットで美祢のこのすばらしい農林産品、それからミネコレクションを紹介していただいて、だからこそたくさんの方が美祢に納税しようとしたわけですね。

それから、美祢から出られた美祢に縁故のある方はもちろんですけれども、実は美祢に全く縁がないけれども、JTBを通じて「ああ、美祢というのはすばらしい」、秋吉台、秋芳洞を中心とした自然があつて、そこで培われたものをぜひとも手に入れたいということで、寄附行為というのは、その方々にとっては安い単価でそれを自分たちで手に入れられるということを思って寄附されるという方が多いんですよね。

ですから、我々のこのすばらしいミネコレクションを初め、日本中の方々にそれをある意味買っていただいとるという感覚にも通じると思います。ですから、今、使われたらどうかということをおっしゃいましたけれども、既にもうあらゆるというか、主立ったものは、ふるさと納税のお返しする品数としてお出しをしておりますので、その辺は申し添えておきたいというふうに思います。

そこまでやったですかね、御質問。ちょっと私からはそこまでにしておきます。

それから、今の秋吉台の……入洞券のほうも入ってます。それもお送りしてありますんで、御心配されんように。私はとにかく美祢市を発信することは何でもせえとい

うふうに指示してますから、もう職員もその辺はよく認識してますんで、全てやっています。

以上です。

○議長（秋山哲朗君） 岩本議員。

○10番（岩本明央君） 3回目は、市民の方の声をお話したいと思います。

市民の方々から、有害鳥獣対策事業の推進及び周知徹底について御要望がありましたので、お話ししたいと思います。内容は、有害鳥獣対策事業はどのような内容のものか、どこへ聞きに行けばよいか、どのような書類を出せばよいかなど、たくさん質問がありました。私が思うに、本市のこの対策事業は、県内でも優秀な事業内容だと思います。広報やPR活動を通して、もっと小まめに市民の方々にお知らせしてほしいと思っています。いかがでしょうか。これは答弁要りません。

最後に、安倍総理大臣と村岡山口県知事は、今、農業振興に多大な力を導入しようとしておられます。まさに、千載一遇のチャンスです。美祢市も国や県とスクラムを組んで、お二人に負けないよう村田市長も農業振興に御尽力されることを期待しております。

以上、私からのお願いと期待を申し上げまして、一般質問を終わります。

○議長（秋山哲朗君） この際、午後1時まで休憩をいたします。

午前11時51分休憩

午後 1時00分再開

○副議長（岡山 隆君） 休憩前に続き会議を開きます。

議長が所用のため席を外しておりますので、これより副議長の私が議長の職務を務めさせていただきます。御協力のほどよろしく願いいたします。

一般質問を続行いたします。徳並伍朗議員。

〔徳並伍朗君 発言席に着く〕

○16番（徳並伍朗君） 政和会の徳並伍朗でございます。一般質問順序表に従いまして、一問一答方式で質問をいたします。

まず、質問に入ります前に、村田市長そして執行部の皆さん、職員の皆さん、市民の安全・安心のため、また、福祉の向上に日夜努力しておられることに深く敬意を申し上げます、ありがとうございます。

それでは、質問に入らせていただきますが、去る9月4日に待望の日本ジオパーク認定を受け、美祢市中が喜びに沸きました。この快挙は、市民の皆様、山口大学、徳山大学、市執行部、まさに、民・官・学の取り組みの結果と思います。

そこで、本認定をベースに、今後、美祢市は二つのことに取り組むべきと考えます。

第1に、ジオパーク認定後の取り組みについてですが、観光振興、教育、産業振興が重要課題と思います。さらに、何より重要なのは、美祢市に住む住民の皆様が、ふるさと美祢市に誇りを持って物心両面に豊かに暮らせることです。次に、世界ジオパークを目指しさらなる上昇志向で、しかもグローバルな活動をすることが重要であると認識しております。

そこで、第1の問題について質問をいたします。村田市長は「日本ジオパーク認定は、美祢市の新たな扉が開いたものであり、今まさにスタート地点に立ったばかりであると理解しています」とコメントされておられます。さらに、「地球公園たる美祢市への定住促進を図り、ジオ資源を保全しつつ、観光振興を初め農産物等のブランド化による六次産業の創出、教育活動を通じた郷土愛を育む取り組みを進めていきます」と先日の市長の市政報告会で言われました。私も同感であります。

そこで、六次産業の振興を具体的にどのように展開されるのかお尋ねをいたします。私は、六次産業の振興は、第三セクターの両者が重点事業として取り組むべきと考えております。美祢観光開発は、流通業でいう川下に当たります。川下の販売力がさかのぼって川中の加工部門、さらには川上の生産部門が元気になります。加工部門の開発はまさに美祢農林開発の役割と考えます。

まずは、川下対策としてジオ拠点施設の設置と特産物売り場の併設について、いかにお考えかお尋ねいたします。

次に、世界ジオパークを目指すためのプロセスと条件並びに時期についてお尋ねをいたします。美祢市は台湾に事務所を設け、国際交流の先駆けとして人的交流や観光連携、さらに、経済取引等多岐にわたって交流を進めております。この事業の効果も徐々に上がっております。

私は、さらに、国際交流都市としての美祢市地球公園を全世界に通用できるグローバルな活動をすべきと考えます。そこで、具体的にどのような手順で取り組まれるのか、お尋ねをいたします。

○副議長（岡山 隆君） 村田市長。

○市長（村田弘司君） 徳並議員の御質問ですけれども、私の理念を質問の中でおっしゃっていただきまして、よく御理解を賜っているようでありがとうございます。

いろいろなことを今、御質問の中でおっしゃいましたけれども、まず、六次産業と申しますか、この振興について、どういうふうにするかということでおっしゃいました。例え話でおっしゃいましたけれども、川上がすばらしい田畑で物をつくって、そして川中でそれを上手に加工して、そして川下でどういうふうに上手に売っていくかということだろうというふうに思います。

田畑を保全するということは、有害鳥獣なんかを避けていくことももちろん必要ですけれども、一方では、そのお金になる仕組みと申しますか、特にこれから先、農業につかれる方、林業につかれる方にどういうふうな形で魅力を与えていくかということが必要だろうというふうに思っています。

都市近郊の農業なんかにおかれては、そのまんま、そのおつくりになった物を大都市圏の大きな人口のところへ出荷をしている。まあ川下に当たりますよね、そのまんま出されて大きな収入を得ておられますし、また、道の駅なんかは、大都市近辺の道の駅に野菜売り場をつくって、どこのどなたがつくられたかということで、大都市から集中的に道の駅に行かれて大量に買われるということで、川上と川下が直結しておるといふ形がとられておるといふふうに思います。

我々美祢市におきましては、もちろん道の駅なんかがありますから、そちらのほうで直接、農産物、林産物をお売りするということをやっていますし、また、於福の道の駅を中心にそういうこともさらに充実させていこうというふうに考えておりますけれども、一方では、それだけでは、その農家の所得向上には結びつきがたいということもあります。

今のおっしゃいました川中に当たる部分のその加工ですね、だから六次産品、一次産業と二次産業と三次産業を掛け合わせるか、足すか、足しても掛けても、皆6になりますけれども、六次産品をつくり出していくということ。これは大きな恐らく行政としての使命も担っておるんじゃないかというふうに思っています。その意味での御質問だろうと思います。

本市の六次産業につきましては、平成25年、ことし27年ですから2年前の4月ですね、このときに美祢市六次産業化基本計画というのを策定いたしました。

議会サイドのほうも議員、徳並議員ももちろんですけども、御承知だろうと思えますけれども、この基本方針に基づいて、ただいま諸施策を展開、実施をしておるということでもあります。

この基本計画におきまして、まず、基本理念を申し上げますと、農林水産業者等を初めとする関連産業の六次産業化に向けた取り組みを推進し、新たな市場、付加価値を創出するとともに、雇用の確保と所得向上を図るということです。これが理念ですね。

この理念に基づきまして、一つには市内産業の育成、発展。二つ目として各種連携ネットワーク構築及びマッチングの推進、そして最後に三つ目として、新産業の創出及び地域ブランドの開発の推進、これらを定めております。これらに基づきまして、基本施策や具体的な取り組みについて、記載をしておるということで、これに基づいて行っておるということですね、行政をですね。

現在、実施しております事業について申し上げますと、これ市の単独事業ですけども、六次産業化スキルアップ事業において、六次産業をするための人材、それから組織の育成ですね、組織をどうつくっていくか、並びにいろんなできていく物をどういうふうに情報発信するか、また、情報を収集するかということについての取り組みとともに、併せまして六次産業化振興推進事業費補助金制度を創設をいたしております。

これは、市内の各事業所に対しまして、商品開発、ですから六次産業産品を生み出していただくために、そのかかったコストについて、市として補助金を出して、それを喚起、促していくということを進めております。

また一方では、出口として地域ブランドというのをつくるという、ですから、美祢・秋吉台という地球公園で育まれたすばらしい農林産物を使って売っていくということですので、それを加工したものという統一的な基準、そしてイメージを発信するということが非常に大切だというふうに私考えまして、御承知のとおり、これも平成25年ですけども、美祢市の地域ブランドとして、午前中の一般質問でも申し上げましたけれども、ミネコレクションというのを立ち上げました。

現在、市内15の事業者、品目にすると35品目の認定を行っているところであります。本年度、ことしですけども、先月の27日、ですから、ほんの1週間ほど前ですけども、このミネコレクションの本年度の認定審査会を実施をいたしま

して、ことしも鋭意取り組まれました、新たな認定商品が誕生するという見込みになっております。

このミネコレクションにつきましては、実はことしの9月に認定者協議会というものを立ち上げました。私も発足会に出席をいたしましたけれども、先ほど15の事業者ということを申し上げましたが、それぞれが一生懸命やっただいておりますけれども、力というのは、単独で動くよりも1が二つ、2が三つ、四つ、五つになると、束になると強いもんです。

ですから、この認定を受けられた事業者が、協議会を立ち上げていただきまして、認定事業者同士の相互連携に基づいて、この協力体制をつくっていく。そして、売り方についてもいろいろ考えていくということをやっしていきたいということで、情報発信及び販売促進に係る事業を、このミネコレクション認定者協議会によってやっしていきたいというふうに考えてます。

今後の取り組みといたしましては、商品開発もさることながら、ジオパークたる美祢市の大地で生まれ、ですから地球公園で生まれ、愛情が十二分に注がれました、また、生まれ育まれてでき上がったこれらの商品を効果的に情報発信するだけでなく、台湾も含めて諸外国も視野に入れて、先ほど申し上げた出口に当たる部分、これをいかに構築するかということ。

今の中国と一緒にすよね、中国はもう過剰生産になりまして、出口が滞っちゃってますので、物が余っておりますね、中国ね。大変な経済、金融状況になってますけれども、実はこの出口対策がうまくいかずに、つくるほうだけどんどんやっちゃったもので、全体としてのアンバランスを中国そのものは生じておると。

その小さいものになりますけれども、この六次産業産品につきましても、いかに出口、売ってるところをちゃんとつくっていくかということは、これからは大きな私は課題であろうというふうに考えてます。

今後は、この認定者協議会ともタイアップいたしまして、美祢市の六次産業産品のさらなるスキルアップを図ってまいりたいというふうに考えています。

それと、併せておっしゃったのが、世界ジオパークネットワークの正会員にどういふふうな形で取り組んでいくかという御質問になったと思います。これにお答え申し上げたいというふうに思います。

これは幾度も申し上げておりますし、先ほど徳並議員から発言をいただきました

けれども、ことしの9月4日に美祢市全域、秋吉台だけじゃないですから、美祢市全域がM i n e 秋吉台ジオパーク地球公園として、日本ジオパーク委員会のほうに認定をされたということです。

さきの9月美祢市議会におきましても報告をいたしましたけれども、この日本ジオパークに認定されたことは、本市がジオパーク、すなわち先ほど申し上げた地球公園として、これも徳並議員先ほどおっしゃいましたけれど、実は、これがゴールじゃなかったんですよ。

一番最初の大きな扉をこじあける、扉を開いた瞬間が私はことしで9月4日の日本ジオパーク認定であったというふうに思っておりますし、恐らくこれらに携わっていただいた多くの美祢市民の方々、団体の方々も同じ気持ちだろうと思います。これから、これからなんですね。今はそのスタートラインに立って、扉を開いて、さあこれから大きな大地の中の未来をどういうふうにつくっていくか、どういうふうに進んでいくかということこそが大事だろうというふうに思っております。

日本ジオパークというのは、ジオパーク活動というのは本当に地域活性化に結びつきますし、先ほど申し上げた六次産品をたくさん来ていただく方にどういうふうに進んでいくかということ、また、商品開発に携わる人も要りますし、スタッフも要りますし、雇用も生じてまいります。

ですから、地域経済それから雇用体制、そしてひいて言えば将来的には、このすばらしいものを目指しておる美祢市に住み続けよう、または住んでみたい、またいろいろな農林産物もつくって六次産業もやってみたいという地域定住にも結びつくものだろうということだと思っております。

ですから、あらゆる面での大きな扉をあけたばかりだということです。これは、市民の方々がほんとに熱心に取り組んでいただきまして、大きなフォローができたから、このジオパーク認定がなったというふうに思っております。

この火を消さないこと、だから、行政だけが、我々がやっとなるからお前らあなた方は引いときなさいよ黙っときなさいよ、行政がやるからというスタンスでは、このジオパーク活動は決してうまくいきません。

市民の方々がみずからの住んでおられるところに誇りを持って、みずからがつくっていく、いろいろあるものについて誇りを持って、そして、未来を考えていこうと、これこそがジオパークですから、それをいかに行政はバックアップをして支え

ていくかということこそ、ジオパーク活動だろうというふうに思っています。

また、私の掲げておりますトリプルエンジン、ジオパーク活動の推進、それから国際交流の推進、そして六次産業化、これも、このトリプルエンジンの中にももちろんジオパークも入っておりますけれども、これを上手にリンクさせていくということ、これは一体的なものとして私理解していますので、三つのエンジンを束にして、美祢市をもっとすばらしいところに持っていこうというふうに思っています。

扉をあけたという言葉が、先ほど徳並議員がおっしゃった世界ジオパークにつながる大きな道だろうと思っています。現在、世界には33カ国、数にすると、地域にすると120地域の世界ジオパークがあります。世界遺産については、千数百ありますので、世界遺産の今10分の1程度、世界ジオパークはですね、そういうふうなものであります。そして、Mine秋吉台ジオパークは、山口県で現在唯一の日本ジオパークということで、山口県全体にとってもこれは大きな効果があるだろうと私は自負しております。

今後、日本ジオパークを世界ジオパークにしていくためには、大きなハードルがあります。特に、これも午前中の一般質問の中でもちょっと触れましたけれども、実は先月の11月に、フランスのユネスコ本部で第38回のユネスコ総会が開かれております。そこで、世界ジオパークネットワークの活動が、これまでもユネスコが深くかかわっておられまして、後押しするといいますか、関連事業、推進事業、支援事業という取り組み、形でやっておったんですが、これが正式にユネスコの総会において、ユネスコの正式事業へ大きな格上げがなされました。これは、決定いたしました。

従いまして、今まで世界ジオパークになっておったところは、ユネスコの推進事業の段階、レベルで、世界ジオパークになったということです。ことしの11月以降は、ユネスコの本体事業としての世界ジオパークになるということですから、大きな階段の高さが違うわけですね。

ですから今後、世界ジオパークになるということは、現在までなっておられる世界ジオパークになられたところも、努力されたからなられたんですけれども、それ以上のもっと大きな大きな力、また、努力が必要ということに思っています。

私はハードルは高いほどいいと思っています。低いハードルなんぞは誰でも超えられますから、面白くも何ともない。ですから、せつかくですから、美祢市がこれか

らもし世界ジオパークになれば、真の国際都市になれるということです。

ユネスコが、本体が、認定をする国際的な都市として、地球公園として認められるということですから、これは世界に大きく発信できる絶大なチャンスだろうというふうに思ってます。

今後、我々は、それに向かっていくわけですがけれども、実は、今までのジオパーク活動、日本ジオパーク活動は、経済産業省とか文部科学省とかその他の省庁にまたがって動いてました。

日本国政府も一応支援はしておったけれども、実はその責任の所在が曖昧なところがありましたけれども、この世界ジオパークにつきましては、今回、文部科学省が完全に主管するということになりました。

そうすると、今後、政府の取り組みといたしまして、ユネスコの正式事業に格上げされたということが決定いたしましたから、この文部科学省を中心に政府そのものが、このジオパークに向かって進むときの支援なり、それから取り組みが、さらにぐっと大きくなります。

ですから、そのことを踏まえて今後、政府それから山口県と協調していく必要があろうというふうに思ってます。先週も木曜日だったかな、知事といろんな話を知事室で話させていただきました。私、知事と非常に気が合ってますんで、しょっちゅう、知事と会って話をさせていただいてますけれども、このジオパークのことを中心に話をいたしました。

で、知事そのものが、この、美祢市がジオパークになったということが非常に重みがあるというふうに認識しておられますし、世界ジオパークが今度ユネスコの本体事業になったと、正式プログラムになったということも認識をいただいております。

ですから、県が今後さらに、本気になっていただく。そして、国もおそらく……あの、実はですね、美祢秋吉台というのは、日本ジオパーク委員会の現地審査のときにおっしゃいましたけれども、実は、日本国の中で恐らくトップにほぼ位置する、ここはジオパークであると。

今後、新しい体制での世界ジオパークができるわけですから、その中で日本の誇りとして、この秋吉台ジオパークを世界ジオパークになってほしいということ、現地調査に来られた委員がおっしゃいました。恐らく本音だろうと思います。期待

も大きいですが、その期待というのは、裏を返せば大変な責任と努力を必要とするということです。これに向かって進んでまいりたいというふうに思っています。

これから、先ほど申し上げたように市民の方々の炎をさらに大きくする必要があります。そのネットワークをもっと構築していく必要があります。一番申し上げたいのが、議会サイドが、どうかお願いですから、このジオパークに向かって力を貸していただきたい。市民の方々はもう動いてらっしゃいます。どんどん動いてらっしゃいます。徳並議員はこういう形で御質問をいただいております。徳並議員は一生懸命支えようと、引っ張ろうという気で満々でいらっしゃいます。どうか、議会全体としてこのことを御認識いただいて、いかにこのジオパークになった意味が大きいのか、そして、世界を目指すことの意味が大きいのかということ、美祿市の未来にとってどれほどの価値があるかということ、御理解を賜りたいというふうに思っています。

先ほど申し上げたように、世界ジオパークになるということは、これほどのビッグチャンスはありません、本市にとって。従いまして、今後、世界ジオパークに挑戦する強い決意を持って、私は、ユネスコのジオパークの状況をずっと注視をしながら、市民の方々の熱気をさらに高めて、ともに世界ジオパークに向かって邁進をしたいというふうに覚悟を決めております。

以上です。

○副議長（岡山 隆君） 徳並議員。

○16番（徳並伍朗君） 市長さんの強い決意をいただきました。市民の皆様方のジオパークへの熱意を絶やさずにといい話でございました。

実はこれ、於福小学校の話であります。「ふるさと於福は心の基地」という題目で、上野校長先生が、11月号に寄せられた文章を読みたいというふうに、こう思っております。

平成27年度於福小中学校運営協議会が子供たちに気づかせたいことと考えて取り組んでいることは、ふるさと於福は心の基地であるということです。今住んでいるこの於福で多くの人々がかかわり合いながら育っていくことに気づき、やがて大人になったとき、ふるさと於福が、心のよりどころとして存続する場所になってほしいと願っています。ですから、子供たちにできる地域貢献として、地域

の人・もの・ことを学習台として、「おふく科」の学びを推進していきます。

今回、いきいき於福っ子発表において、於福小学校のわんぱく山やサラダホウレンソウ、そして、田植え児童や長登の銅と関連させた奈良の大仏等、各学年の演目や、於福地区や美祢市を題材にしていました。

さらには、1、2年生のかわいだけでなく、しっかりと声がそろった群読、そして3、4年生の子どもジオガイド、5年、6年生による英語によるジオガイドと、まさに祝日本ジオパーク認定にかかわるものでございました。

御来校いただいた方々から、たくさんの賞賛の拍手により、ますます自信を深めていったようです。

それともう一部、同じく11月に出された「おふくの風」という、於福小学校子どもジオガイド美祢市に広める、これも上野校長先生が書かれた文章であります、読んでみたいというふうに思っております。

10月31日に行われた美祢市生涯学習フェスティバルにおいて、於福小学校の子供ジオガイドがステージ発表をいたしました。3年生以上の子供たちには、土曜日にもかかわらず、たくさん参加してもらって、於福小学校の自慢ができました。保護者の皆様には、子供たちの送迎並びに参観と、本当に御協力いただきましてありがとうございました。おかげさまで、美祢市民の多くの方に於福小学校の学習の成果と於福水神公園を広めることができました。日本語の後での英語の発表には、驚きと驚嘆の拍手が起こっていました。そうですね、小学生が英語でジオガイドするなんて考えられません。でも、それを於福小学校の子供たちはやってのけたのです。しかも、堂々とした態度で。これに至るには、英語の原稿をつくってくださった伊佐中学校の堀田先生と、きれいな発音によるよう特訓してくださった、於福中学校の原田先生に感謝しております。

というふうに、あと、ありますが。

こういうふうにして、於福の小学校からジオガイドについて、他地区の中学校あるいは地元の中学の先生方に、いろいろと連携を持った中であるという、すばらしい本当に熱意のある、もちろん、於福だけでなく、他校、美祢市内の学校にもそういうふうなものがあると思っておりますが、本当に熱が、どんどんと上がってきております。

42度になると人間は、生きませんでしょうけれど、今、40度ぐらいに上がって

きているんじゃないかなというふうに思っております。

それから、本市のジオパーク活動には、やっぱり観光人口の拡大というものが大変大事だろうというふうに、こう思っておりますので、私のちょっと、思いを言わせていただきたいというふうに思っておりますが。

市外、県外の方々に多くの方が来ていただくのには、日本ジオパークに認定されましたM i n e秋吉台ジオパークの宣伝をしなければならないというふうに、こう思っております。

毎年400人以上、美祢市から旅立たれる、これは高校じゃないんです。美祢社会復帰促進センターのセンター生が毎年、400から500人ほど美祢市から立たれます。すごいでしょ。これは、このセンター長に聞いたわけでありますから間違いございませんが、その社会復帰促進センターの方々への協力をしてもらってはどうか。

ということはですね、地域との共生を掲げて誘致をした美祢市です。「いいですか、美祢市さん、社会復帰促進センターを誘致するためには、地域との共生ですよ」というふうに私も法務省に行って、当時の法務大臣にも言われました。ですから、今度は、またきのうの新聞で、先ほど市長が言われましたように、法務大臣が来られて、すばらしい社会復帰促進センターだと。今度は、社会復帰促進センターから美祢市へ共生をしていただきたい、ともに生きていただきたい。

というのは、社会復帰促進センターから卒業されるといいますか、出所されるときに、一つの方法として、秋吉台、秋芳洞、見ていただいた後、そこで、俗に言う、釈放といえますか、開放といえますか、されるようにして、いったらどうだろうか。

そしたら毎年、四百数十人の、あるいは五百人近い方々が、美祢市のジオパークを宣伝していただける。そして、釈放されて、うわあ、きょうから自由だ、すばらしいと、よし、俺は頑張るぞというときに、あの広い秋吉台とすばらしい秋芳洞を見ていったら、必ず、印象に残るんじゃないか。

そして、あそこには、若い人も多いわけでありますから、結婚したら、リピーターとして、もうあのセンターには入ってほしくないわけですが、リピーターとして秋吉台に来ていただくと。あるいは、秋芳洞に来ていただくというものが、非常にいいんじゃないか。

しかし、そのためには大変でしょうけれど、年間数回、センターに行って出前講

座で日本ジオパーク、世界ジオパークこんなもんですよと。皆さんは今、その中にいるんですよということから始まったら、もちろん、大変面白くやらないと、あんまりしかめっ面ではいけませんので、それを上手に、落語風にとまではいきませんが、それをされたら、非常に、これ、ただで効果があるわけですから。極端に言うたら。

ただし、秋芳洞に入るには、やっぱりなるべくただで入れてあげたい、もらいたいというふうに思っておりますけれど、これは、法務省との関係ですので、法務省は、いや、金出すよと。これはどんどん、それは、そういういい思い出をつくってくれよということであれば、また、それも両得だというふうにこう思っているわけですが。

本当に、これは、私の考えではありますけど、法務省との関係をちゃんとやらなければ、相手がいることでありますので、そう簡単にはできないというふうに思っておりますが、共生を大義名分とすれば可能ではないかなというふうに思っております。

それから、世界中のジオパークとの国際交流などを通じた、よりグローバルな活動が要求されるものというふうに考えているわけですが、先進地の視察も大切だというふうに思っております。日本ジオパークでもいろんなところを視察されたというふうに思っておりますが。

我々の会派としても、糸魚川等にも視察をさせていただきました。世界ジオパークについても同じであろうというふうに思っておりますが、近くでは、世界ジオパークのためには、近くでは中国の山東省、泰山地質公園——中国では、地質公園というそうではありますが——泰山のジオパーク、これは山口県とも山東省は関係の深いところでもあります。

また、韓国では1カ所しかないわけですが、済州島ジオパークがあります。ここは、溶岩洞、溶岩が流れて、それが急速に固まってできた洞窟ですが、年間300万人の入洞者があると説明がありました。

中国も韓国も、友好交流するのは、なかなか難しいわけでありまして、美祢市も棗荘市との過去といいますか、友好関係をしておりましたが、今はもう滞っているわけがあります。駐車場のへりに碑がありまして、棗荘市との友好交流でザクロの木が植えてあります。もう一つ、こちらの駐車場のところにあるわけですが、2本

ほど植えてあります。春にはものすごく花が咲きます。しかし、私ずっと見るんですが今まで何年も見ておりますが1個も実がついたことがありません。

私のところにも、同じときの木があります。それも全くつきません。しかし、切って挿し木をしたら、その木には実はつくんですよ、1本で30個ぐらいつきます。だから、挿し木をしたというか、時代が変わらないと、なかなか友好交流も難しいんじゃないかなというような、これは、そういうことを言ってはいけませんけれど、なかなか難しいということではありますが。

しかし、先進地でもありますので、ぜひとも、そういうところにも行って見て、それも同時に友好交流とか何とかじゃなくて、ジオパークとの交流であれば、割とみやすいんじゃないかなと。

二、三日前の山口新聞に載っておりました。中国山東省から農業視察で日本にいられたということがありますから、そういうこともやってみればいいんじゃないかな。ただ、中東、ヨーロッパにもたくさんジオパークがあるわけではありますが、ちょっと、ここは今テロとか何とかで、非常に、行ったらどうかっていうことは言えないというふうに思っておりますが、そういうふうにして、いろんな新しい発想でやれば、いいんじゃないかなというふうに思っておりますが。

社会復帰促進センターのいろいろな問題、それから、外国との交流についても、相手がいることでありますから、どうかなというふうに思いますけれど、答弁が要りませんが、市長さんのコメント等があれば、お話をさせていただければというふうに。なければ、次行きます。

○副議長（岡山 隆君） 村田市長。

○市長（村田弘司君） 今、いろんなおもしろい御提案と申しますか、コメントでいいですか、コメント。では、答弁じゃなしに、コメントでいきましょう。

今の社会復帰促進センターを卒業なされて、年間四、五百の方がここを巣立られるということですね。非常に、軽い刑で入っておられる方がほとんどですから、1年とか2年でもう出所される方が多いです。もう一遍、自分の人生をつくり直そうとか立ち上がろうということで出られる方が、ほとんどだろうと思います。

そういう方々に、面白い発想だなと思いましたねえ。これは、徳並議員ぐらいしか思いついちゃいないですよ、普通の人々の発想じゃないと思いますねえ、出てこないと思います。そういう方々に、秋吉台、秋芳洞を見てもらって、心晴れやかになっ

て、すばらしいところだろうってのを、さらに大きな印象になるでしょう。それをいろいろなとこに、日本全国行かれますから、発信元になってもらおうというお考えですね、面白いですね、これ。ちょっと、コメントですよ。法務省とかセンターのほうとも相談してみましよう。

きのうも、岩城法務大臣ともいろんな話をさせていただきました。地域共生そして社会復帰促進センターがどういうふうな形で、この美祢市に寄与できるかということも、向こうからもお話がありました。

先ほど午前中、苑場凌氏の漫画のこともお見せしましたが、あれはアシスタントが、今センター生で、あそこに収監されておられる方々が、苑場凌さんのアシスタントと、実際にあの漫画を描いておられますから、それがこれ、なってるわけですから。非常な、これから生きていく上での大きなお力を我々はお与えしておるし、それに応えていただいている方々がたくさんいらっしゃるちゅうことです、センター生の中に。

そういう方々が、これから見て、いろんなとこに散らばられて発信していただくのもいいし、それを見られた瞬間に美祢市はすごいなあと、よし、これから世の中のためになろうと、この美祢市のためになろうということで、ここに定住される方もいらっしゃるかもしれません。

いろんなことがあり得ると思いますので、ちょっと、この辺は、法務省大臣がその辺頑張ると、きのうお話したばかりですから、ちょっと投げかけてみたいというふうに思います。

これがコメント一つですね。あと、何やったですかね。いいですか、印象一番に残ったコメントだけ申し上げます。

○副議長（岡山 隆君） 徳並議員。

○16番（徳並伍朗君） 質問がちょっと前後いたしますが、ジオパークの拠点施設あるいは六次産業の問題でありますけれど、先ほど糸魚川の視察をさせていただきましたと言いました。糸魚川のジオパークのミュージアムといいますか、見せていただいて、はっと思い出しました。

本当にミュージアムというか、博物館といいますか、世界中の化石がたくさん集められて、もちろん糸魚川はひすいといいますか、それに対するいろんな地層の関係でありますけれど、とにかく外国からの集めたものが多くて、あんまり地元の物

がなかった。

しかし、日本を、そしたら、ぱっと美祢市を考えたら、美祢市はすごいなど。思い出してください、岡藤コレクションがあります、岡藤コレクションが。数十万点という化石が、美祢市に今、倉庫に眠っています。もちろん、歴史民俗資料館あるいは化石館にもあるというふうに思っておりますが、すばらしい化石があるんですよ。これを使うのが、最高であろうと。とにかく、3億5千年前ぐらいな、その雰囲気を感じていただくと。

外国から、例えばドイツから、あるいはモロッコから、あの砂漠から、あるいはモンゴルからというよりかは、ほんとの美祢市の昔の姿を、象の化石もあります、ヤベオオツノシカの化石もあります。そういう、ほんと美祢市の3億5千年前からずっと後の美祢市の姿を見せてあげたら、ほんとにたまげるんじゃないかな。

ただもう、どちらかという外国から輸入したものはどこでもあります。観光地に行っても売っておりますから。しかし、そんなもんじゃなくて、それ、今、岡藤コレクションは、そこしかないわけですから。どこにもありません。そういう、ぜひとも使っていただけたらというふうに、使って、このすばらしいものにしていきたい、していったらというふうに思っております。

また、六次産業でありますけれど、先ほども言いましたミネコレクション、確かにその売れて売れてなんぼつくっても売れるというものもあるようでありますし、これもいかに、先ほどもいいましたように、売っていくところが課題だというふうにおっしゃいましたが、いかにいい野菜をつくって、いかにいい加工をして、いかにいい宣伝をしても、売るところがないとどうにもなりません。

それをやるべきだというふうに思っておりますが、先ほど言いましたように、ジオパークのそういう施設と、それから、六次産業を含めた物をつくればいいんじゃないかなというふうに思っております。

糸魚川では農産物等は全く売り場がなく、その観光地にあるようなものだけでありましたけれど、ほんとにやっぱり六次産業を絡めたジオパークの拠点施設をそろえればいいんじゃないかなと。

これもまた、我々政和会で、我々政策集団でございますから、御提言を申し上げたい。次になるか、いつになるかわかりませんが、政和会からまた提言をしていただいてどうだろうかなど。

もちろん、執行部とも相談しながら提言をさせていただきたいというふうに思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

それでは、次の質問に移らせて、（発言する者あり）あ、どうぞ。（笑声）

○副議長（岡山 隆君） 村田市長。

○市長（村田弘司君） 今、徳並議員がおっしゃったことというのは、恐らく、我々ジオパークの拠点施設のことをおっしゃったんだろうと思います。今、秋博といますけど、秋吉台科学博物館、すばらしい施設です。旧秋芳町が、よくあそこまでやってくださったと思っております。それを今、引き継いでますけれども、実は、その国定公園そして今は地球公園、ジオパークになりました。この、拠点施設としては、非常に弱い。

先日のジオパーク委員会の現地視察でも、拠点施設を必ずつくってくれと。日本ジオパークになる条件として、そういう計画があって今胎動を起こしておるといふのであれば、それは条件としてクリアできるけれども、世界ジオパークを目指すのであれば、世界ジオパークの必須条件が、拠点施設をきちっとつくるということ。これをなしに世界ジオパークの認定はないんですよ。ですから、全くこのレベルが違いますので、そのことだろうと思います。今の、地球公園たるところででてきたものの、加工した六次産品を売ってくの併設したらどうかというお考えだろうと思います。

それと、今の岡藤コレクションのことをおっしゃいましたけれども、秋吉台の3億5千万年から3億年前の化石群、フズリナとかいろいろありますけれども、それと併せて、この石炭の化石、それから、今の石灰石の化石、いろいろなものがあります。

それから、銅鉱晶のいろんなすばらしいものもありますし、美祢市内のいろんなこの地球資源を、一堂にそれを展示をして、そして、世界中から集まられた方に見ていただいて驚愕してもらおう。そして、市民の方々は、これほどのものを我々は持つておるといふことの誇りにしてもらおう——そのセンター。その周辺に美祢市でつくっていった六次産品を並べて売っていくという方法もあるでしょう。いろんな考え方があります。

じゃあ、場所はどうかということもあります。ということも含めて、先ほどちょっと触れましたけども、先週の26日、木曜日ですから26日ですか、村岡山

口県知事とかなり話しました、知事室で。そのとき、ジオパークの話を中心にしたということを申し上げましたけれども、実は、この拠点施設の話も具体的にいたしました。

前々から知事とはいろいろなところで話をしていますから、拠点施設は必ず必要だよと、本来であれば、秋吉台にあるものだから、国立であってもおかしくないんだよと、県立であってもおかしくないんだよ、それを旧秋芳町は町単独でやっただよ。本来であれば国立であっても全然おかしくないと。

だから、今後、この拠点施設を整備していく上において、知事いいですか、国立でやろうとするときは知事の力、絶対要りますし、私も国会議員の方々にいろいろ言いますけれども、そういう方法がある。そして、県立でやる方法がある。もう一つは、美祢市全域がM i n e秋吉台ジオパークですから、美祢市が我々の力でやるという方法があります。

しかしながら、それには莫大なお金がかかります。そのときには国の財源、必ず必要になってきますし、私は必ずそのときにはお願いをするというふうに申し上げました。で、知事そのものが拠点施設がいるということをもう頭に十二分に入れていただきました。

ですから、今後、今のどういう形態でやるか、研究機関もちゃんとなけりゃいけません。すばらしい研究成果を持っていますから、秋吉台科学博物館は。これは世界に誇るべきものを持っています。その施設も要ります。

そして、じゃあいろんなものを来られた方に美祢市内のいろんな特産品をお売りするものを併設するんか、じゃあどこにつくるんか、先ほど申し上げましたけども。いろんな、クリアしなくちゃいけないことがいっぱいありますので、その辺も含めて、これから世界ジオパークに向かって、我々も考えるし、県ともいろんな協議を重ねていきたいというふうに思っております。

以上です。

○副議長（岡山 隆君） 徳並議員。挙手して。徳並議員。

○16番（徳並伍朗君） 続きまして、2番目の質問に入らせていただきます。

中学生を対象にした子ども議会を開催してはどうかという質問をいたします。

新市が発足して8年目となります。日本ジオパークの認定に向けて、市民は大いに盛り上がりましたが、これをきっかけとして、今後ますます新市としての一体感

が高まることを願っております。

そこで、新市としての一体感のさらなる高揚に向けて、まずは子供への働きかけから始めることが重要ではないでしょうか。私といたしましても、各校の子供たちが子ども議員となり、美祢市の将来について自分なりの意見や考えを述べお互いに議論し合うような子ども議会に参加することによって、市民としての自覚が高まるのではないかと考えております。さらには、教科書だけでは学べない議会の仕組みや、地方公共団体の役割を体験的に理解し、主体的に社会に参画しようとする意欲や態度を補うことも大事なことにもつながります。このような子ども議会の開催から子供たちには美祢市の現状を理解し、課題に向き合うとともに、美祢市の発展に向けて一市民として自分のできることを、市としてできることを考えながら、議員同士が未来志向で建設的な意見を述べ合う本来の議会の姿を学んでほしいと願っております。

実際に、平成22年度には小学生を対象とした美祢市子ども議会が開催され、子供たちの視点から見た美祢市の課題について多くの質問がなされました。住みよい、魅力ある町に向けた子供たちの思いが多く市民にも伝わり、大いに成果があったと考えております。

そこで、前回の小学校での成果をもとに、今後、中学生を対象とした子ども議会を開催することについて教育長の考えをお聞かせいただきたいと思っております。

○副議長（岡山 隆君） 永富教育長。

○教育長（永富康文君） 徳並議員の中学生を対象とした子ども議会の開催についての御質問にお答えをいたします。

議員御指摘のとおり、子ども議会を経験することで、将来を担う子供たちが美祢市の現状を見つめ、市政に対する自分なりの意見や考えを持つとともに、主体的に社会へ参画しようとする意欲や態度を養うことは大変意義深いことと考えております。

これまでも、新市となって3年目となります平成22年度に、小学生を対象とした子ども議会を開催しております。その際には、市政に参画するという模擬体験を通して、子供たちの目線で美祢市の将来について考え、まちづくりについての提言を行っております。市の課題について真摯に議論し、一緒になってよりよい解決方法を模索することで、将来の主権者としての素地を養うことにもなりました。併せ

て、自分たちのふるさとである美祢市への興味関心が高まり、愛着が深まることで、子供同士の間にも新市としての一体感が醸成される機会となったところでもあります。

また、平成24年度からは、小中学生を対象に、次代——つまり次の時代ではありますが、これを担う子供たちの育成を目指して、美祢子ども交流塾を開催しております。そこでは、日本有数のカルスト地形である秋吉台といったジオ資源を探究的に学ぶことを通して地域振興を考えたり、山口大学医学部で最先端の研究である再生医療の成果に触れ、科学者への夢を膨らませたりするなど、広い視野から創造的に課題解決に取り組むことができるリーダーの育成に努めております。

さらに、平成26年度からは、市内全ての小中学校をコミュニティ・スクールに指定しておりますが、その取り組みの中で、児童・生徒が伝統文化を継承するなど、地域の特色を生かした教育活動や、ジオパークに関する学習等を通して、地域のよさや可能性に改めて気づくとともに、地域の方々と協働して地域のさまざまな課題解決に当たろうとする意欲や能力を身につけるよう努めておるところでもあります。

しかしながら、中学生の間では、限られた友人関係の中で、ともすれば自分のことにのみ関心を示しがちな傾向も見られますことから、より広い視野で物事を考え、進んで社会へ貢献しようとする高い志を育む機会を設けることが求められているところであります。

教育委員会といたしましては、美祢市の子供たちが幅広い学習や多様な体験から得られた成果を踏まえて、広い視野から美祢市の未来について建設的な議論を展開することで、夢や希望を抱いてよりよい社会を主体的に形成していこうとする自覚と責任を持った、将来の主権者の育成につながるるとともに、併せて美祢市民としての一体感やきずなの醸成に寄与する契機ともなることから、今後、適切な時期に、中学生を対象とした子ども議会の開催を検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○副議長（岡山 隆君） 徳並議員。

○16番（徳並伍朗君） 実は、私が十数年前に同じような小学生を対象とした議会をやったらどうですかということやっていたきました。それで、一応子ども議会ができたわけですが、今回は中学生というのはですね、彼らが、3年生がもう3年したら選挙権があるんですね。もう、すぐ大人というか、たばこ酒はやれませんが、選挙権がある。すぐなんですよ。我々の選挙の次の選挙と同じぐらいのと

きですからね。ほんとに、あつという間にくるだろうというふうに思っておりますので、早くから我々の議会の仕組みだとか、いろいろなことを、先ほど教育長が言われたことを本当に体験していただきたいというふうに思っておりますし、今まで中学生が、今の市内の中学生が、一緒になるってことは今までなかなかなかった。運動会等はありませんけれども。やっぱり垣根、時々議会でも垣根は出てくるわけです。市長は、旧美祢、美東、秋芳の垣根をなくそうというふうに必死で頑張っておられるわけでありますが、どうも議会の中でも垣根は出てくると。しかしまあ、中学生から、あるいは小学生でもいいんですが、少しでもみんなが垣根をなくしてやってくればいいんじゃないかなというふうに思っておるわけであります。

しかし、それを教育長さんがやろうというような熱望でございますし、希望でもありますので私も本当にお願いをしたいというふうに思っております。

中学生の子供たちが、私は学校の先生になって、将来の永富教育長のようになりたいという人もおるかもしれません。あるいは、もっともっとまだまだ勉強して村田市長のような人になりたいという人もおるかもしれませんが、まあそういう夢と希望をまた与えて、言えるという、夢をやっぴり実現しなければ夢ではありませんので、まあそういう機会をつくっていただきたいと思っております。

そういうことで、いろいろと質問をいたしました、本当に前向きな答弁をいただきましたこと、ありがとうございます。我々も会派としましても先に言いましたように勉強して提案をさせていただきたいというふうに思っております。

最後に、吉田松陰が高杉晋作に宛てた書簡があるんです。その言葉をちょっと述べさせていただきます。

「死して不朽の見込みあらばいつでも死ぬべし。生きて大業の見込みあらばいつでも生くべし」これは、自分が死んでも長く後世に伝わるような仕事をなし遂げたのであればいつ死んでもかまわない。自分が生きることによって国家の建設・復興など、不朽の雄大な事業が行われるのであれば、生きてなし遂げるべきだ。まさに村田市長のそのものだろうというふうに思っておりますので、御検討よろしく願いいたします、私の質問を終わります。

○副議長（岡山 隆君） それではこの際、暫時2時10分まで休憩をいたします。

午後1時57分休憩

午後2時10分再開

○副議長（岡山 隆君） それでは休憩前に続き会議を開きます。

一般質問を続行いたします。猶野智和議員。

〔猶野智和君 発言席に着く〕

○1番（猶野智和君） 政和会の猶野智和でございます。本日、一般質問初日のラスト、トリを飾らせていただきます。一般質問順序表に従いまして質問のほうを進めさせていただきます。至らぬところ多々あると思いますが、何とぞ御容赦のほど、よろしくお願いいたします。

それでは、早速質問のほうに入らせていただきます。

まず最初に、フィルムコミッション事業の推進について質問させていただきます。

皆さんもう既に御存じと思いますが、改めましてフィルムコミッションとは、映画、テレビドラマ、CMなどのあらゆるジャンルのロケーション撮影を誘致し、実際のロケをスムーズに進めるための非営利公的機関とされるものです。

つまり、映像作品のロケーション情報の提供や、公的施設などの利用する際の許可調整を行い、エキストラの手配から当日の交通整理まで、撮影隊と地元の間を取り持つ架け橋の役割を担う組織です。

一昨年の6月議会の一般質問において、私は美祢市においてもフィルムコミッション事業を行う組織の整備が急務であるという内容を質問させていただきました。そのとき市長におかれましては、このことに大変興味を持ってくださり、質問の趣旨に御賛同いただけたと記憶しています。思い出すと、ちょうどそのとき市長に反問権を、初めての反問権ということでどぎまぎした記憶がございます。それから、おかげさまで、昨年12月に美祢市フィルムコミッションの設立総会が開かれ、本市においても正式にフィルムコミッション組織が立ち上がることとなりました。これは、新聞報道などでも、皆さま御存じのことと思います。

そして、ことしの4月には、職員の研修教育なども行われ、上位団体であるジャパン・フィルムコミッションからも公式に認定されたと聞いております。

また、6月には初の通常総会も開かれ、そのときの総会資料も見せていただきましたが、本日はそれ以降の美祢市フィルムコミッションの活動について、御報告いただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

○副議長（岡山 隆君） 村田市長。

○市長（村田弘司君） それでは、猶野議員の御質問にお答えをいたしたいと思えます。

今、質問の中で触れられましたけど早いものですね、あれは一昨年ですかね、6月議会、一般質問でお受けしているいろいろやり合ったような記憶もありますけども、さあ、前向きに考えてみよう、私申し上げたと思うんですけども、私が前向きになるちゅうことは、大概やりますから。

で、今おっしゃったけども、今年の12月に本当に切望されておりました美祢市フィルムコミッションを正式に立ち上げることができました。これから観光立市、また、ジオパークたる美祢市が、広く国内外を問わず発信をしていくツールというか、その体制を持つということは、非常に大きな意味を持ちますので、猶野議員は非常に先見の明がございましたというふうには思います。ジオパークになった後、フィルムコミッションを立ち上げるんじゃなしに、既にもうフィルムコミッションを立ち上げておりますから、そういう意味では先に発したということですので、これこそがやっぱり、将来を見据えて何を今なすべきかということをやるといふことの大切さの証左だろうと思います。

これも、今、触れられましたけども、昨年度ですね、今年の1月ですが、ジャパン・フィルムコミッションに、いや、この1月ですね、昨年度26年度だからことしの1月ですね、ジャパン・フィルムコミッションに正式に入会をいたしまして美祢市フィルムコミッションの独立をしたホームページを立ち上げております。また、恵まれた自然環境を活用したロケーションの提供を行ってきたところでもあります。

ロケ地につきましては、本市を代表します秋吉台、秋芳洞を筆頭に貴重な観光資源、地質資源を誇る一方で、ふだん当たり前のような景色ですから、何気なく市民の方々が通り過ぎておられる景観とか、いろんなもの、これが実はテレビのドラマとか映画とか求めておられる風景が必ずやあるんですね。これを、広く発信をしていくということは、大きな我々にとって力になりますのでそういうことをやっていきたいというふうに思ってます。

今、言われた、美祢市フィルムコミッションの平成27年度の活動状況っていいですか方針っていいですか、これにつきましてちょっとお話をしたいと思えます。今、申し上げたように、市内にはいろんなすばらしい景観がありますので、秋吉台を中心に。

こうした美祢市内に存在をいたします魅力的なロケーションを制作者側へ情報発信をしていくということ、これも猶野議員は十二分に御承知ですけれども、ロケ地として取り上げていただくということで、本市のイメージアップや観光客の誘致、また、そういうものを何気なく見られた企業の経営者とかが、ここはひょっとしたらうちの会社をこういうところへ持ってきたらええんじゃないかとか、ここなら商売するのに適しちよるんじゃないか、ということも思われる方もいらっしゃいますし、いろんな意味で意味がありますからそういうことを図っていきたいということとしてます。

美祢市フィルムコミッションを正式に設立いたしましたけれども、まだそうはいっても日が浅いということで、ようやくひとり立ちをして歩き出したところです。非常に大きな実績があつてすばらしい組織体制があるという、まだ、わけでもありませんから、誘致に向けた活動も研修会や情報交換等に参加をいたしまして、ある意味では試行錯誤を繰り返しながら、今、フィルムコミッションは動いているということです。

しかしながら、ことしの7月には、ある新型自動車、特定のメーカー言いませんけども、ある新型自動車のWEB-CM撮影を秋吉台のカルストロードで行っていただいております。また、11月ですから先月ですけれども、ウォーターボーイズって御存じです。可愛い男の子たちがプールで、何ちゅうですかいねあれは、（発言する者あり）ああシンクロか、シンクロ、シンクロ、このウォーターボーイズをおつくりになった——手がけられた矢口史靖監督とおっしゃるんですが、この方が演出をされます来年の秋に公開予定になっておるようですけれども、この劇場映画の撮影を実は、猶野議員、秋芳御出身だけでも、秋芳町の岩永地区において行ったところであります。この両作品の制作において現場撮影にかかわる手配等の支援をこの美祢フィルムコミッションがやったという実績がございます。

とりあえず、ここまでにしときましよう。

○副議長（岡山 隆君） 猶野議員。

○1番（猶野智和君） 御答弁、ありがとうございます。

確かに大きな映画ですね、先ほどの矢口監督、ウォーターボーイズ。私はほかにスイングガールズとかジャズをテーマにした、そうですね、ああいうので割と若い人がよく知っていらっしゃるので、ちょうどその情報がこのフィルムコミッショ

ンのホームページが立ち上がったところに、エキストラの募集ということで情報発信されておりまして、その情報などがネット内に回るということで、そのある主演女優さんが来られてたと思うんですけど、その方のファンの方たちがその情報をつかんで、ネット内で山口県的美祢市というところでこういうことやってるらしいぞ、というのがツイッターなどでやっぱり回るんですよ。こういうとこで、今まで多分そういう人たちは耳にしなかったような町を知ることになるきっかけになってるんだなというのかよく、そのあたりの情報のめぐりとか見るとよくわかるなという事例で、最近思いました。

そして次でございますが、我々の会派では先進地への研修視察のために、ことしの7月に長野県上田市の信州上田フィルムコミッションを訪問いたしました。

上田市は風光明媚な歴史ある町であり、また東京とのアクセスのよさもあるということで戦前から映画のロケ地として頻繁に使われてきました。黒澤明、小津安二郎、今村昌平、北野武などなど巨匠と呼ばれる監督の作品の舞台とたびたびなってきたところでございます。

そういう経緯もあり、長野県のフィルムコミッションより、県のフィルムコミッションよりも先にこの上田市の組織が先にできたというぐらいの、まさに先進地と呼ぶにふさわしい場所でございます。

いろいろと勉強になった研修でございましたが、一番興味を引かれたのがその組織の体制でございました。

信州上田フィルムコミッションは、上田観光コンベンション協会、観光協会の1事業として位置づけられており、職員体制はこの事業の専従職員が2名、臨時職員が1名、さらに必要なときがあれば随時上田市商工観光部観光課職員が応援に参加していくという体制をとっていらっしゃいます。要は、この事業だけにかかわる人間が3人——臨時職員含めて3人いるという体制をとっていらっしゃるということです。

片や、今回、美祢市フィルムコミッションのほうでは、役員はもちろんのこと職員に専従は存在せず、事務局も総合観光部職員の兼務によって運営されているのが実情です。

美祢市フィルムコミッションの規約によると、事業内容として第3条に、「映画、テレビ番組、CM等のロケーションの誘致と協力に関すること」とあります。協力

活動という点では、組織を立ち上げたばかりではございますが、先ほど市長がおっしゃったとおり大手メーカーのCMが入ってきたりですとか、大作映画のロケーション実績を上げており、滑り出しとしては大変順調であるものと思っております。

しかしながら、今後、来年度に向けてもう一段ギアを上げていただきたいと、次の段階である映像作品の誘致に力を入れていただきたいと思っております。

そこで、美祢市フィルムコミッションの名誉会長でもあられる市長に御提案でございます。協力活動だけにとどまらず、映像作品のより積極的な誘致を行うために、早急な組織体制の強化がさらに必要ではないでしょうか。また、その肝となるのが職員の専従化ではないかと考えますが、市長はいかにお考えかお伺いいたします。

○副議長（岡山 隆君） 村田市長。

○市長（村田弘司君） ただいまの御質問にお答えをいたしたいと思えます。

会派で視察研修されたんですね、信州上田フィルムコミッション、今、議員がおっしゃったように信州上田フィルムコミッションは北九州フィルムコミッションと双璧、図抜けて体制が整っておる大きな実績を上げておられるフィルムコミッションですね。長野県よりも先に、長野県の中にありながらやられたと、それがさらに体制を強化しているということは、いかにこのフィルムコミッションを本格的にやるのが、その地域の経済活動とか発信にいかに大きな力を与えておるかということで、それが、もしなかったら今村昌平さんとか黒澤明監督とか北野武さんなんかロケ地に選ばれたりしても、それが効果がなかったら続きません。だからそれが、フィードバックされて地元のためになっておるから、それだけの力を持った組織として、今、やっておられるということで、コンベンション協会が核になっておるとおっしゃいましたよね、美祢市でいえば観光協会に当たる場所ですね。私も一遍研修させてもらうといいなと、今、聞いておって思ったんですけども、うちの、うちでいったら変ですけど、私、名誉会長ですからね、美祢市フィルムコミッション。

今、御指摘のとおり美祢市フィルムコミッションは、観光振興課職員の兼務によって運営を行っております。実際の撮影の際には、総合観光部職員が応援をすると、全体で、という体制となっているということです。

先ほども申し上げましたけれども、現状ではフィルムコミッション組織設立から日が浅いということもありまして、ノウハウも不足しているということがありますね。情報提供に対する間接的な制作会社からのアプローチに対しまして、積極的な

支援を行っている。ですから、逆にいえば向こうから、よーい、と声を掛けられたと、はい、と答えてそれに応援・支援をするという形、ですから、アクティブな能動的な形じゃなしに、言えば受け身の形ですね。で、今、動いているというのが現状です。

ですから、制作会社へ直接的に誘致活動を行うという点では、まだまだ努力不足というか力が足りていないというふうに思っております。

しかしながら、やみくもにそういうことをやればよいというものではなくて、まず制作者側の制作動向の把握を行いまして、制作化されるとなれば、制作会社の企画、意図、制作方針など情報収集しまして、その制作会社と信頼関係を構築するという必要ですし、情報を得るといっても必要だろうと思っております。

私、よく申し上げるのはね、全て人なんですよ、私が市長室にじっとしとらんといつも申し上げるけども、何をしとるかという、いろんなところへ行っていろんな方と知り合っているいろんな人脈をつくっています。それをもって美祿市を動かしています。

その方々は、深く知れば知るほど、頻繁に会えば、お会いすればお会いするほど美祿市が何かしようとするときにいろんな力になってくださいます。先ほど、村岡知事のお話を申し上げたけれども、村岡知事とこれほど頻繁に会っておるとやっぱり人間同士ですから信頼関係が生まれてきますし、お互いの腹の中もわかってきますからそういうこともあります。市長の方々ともそうですし、おとついな、おとついなじゃない、この日曜日もKRYのAMラジオをFMのほうに切り替えて、桜山から流すという開局式を行いました。これは、日本初の試みです。同調周期で流すということで、これから長門、萩に同じ周波数で流すという形で動こうと、今、していますけれども、日本初の試みですね。これを、地方の民放局であるKRYが、美祿市を選んでいただきまして真っ先にやっていただいたということ、これはKRYの赤尾会長、私より大分年が上ですけれども、実は市長になったばかりのときに周南の本社まで行って大げんかをしまして、それから信頼関係で、けんかをする仲ようになるんですよ。そういう関係もありまして、ここをまず真っ先に選んでいただいて、今は、FM山口とそれからNHKのFMとそしてKRYのFM波が、今、3局流れる体制になりました。

ですから、災害時においても、いろんな情報が瞬時に得られるということになり

ますし、目が不自由な方にとっても、いろんな情報が流れるというふうなことになりました。ありがたいと思っています。

今、申し上げたように、ですから人をこう知っていく、そして裏切らずにつき合っていくということがいかに大きな力を得るってことですね。ですから、このフィルムコミッションも同じだろうと思っています。各制作会社とのネットワークの構築というのが、結局人の関係をつくっていくということですね、言葉は簡単なんですよ、ネットワークをつくるって簡単みたいなけれど、実は人をつくっていくということですね。双方向の機能を発揮するためには、それが一番重要だろうというふうに思っています。

現在、美祢市フィルムコミッションは、ジャパン・フィルムコミッションが研修をしておられますけれども、その研修を受けた職員がおります。手探りの状態で研修を礎にして事業を行っているところでもありますけれども、今後、制作会社の方とコミュニケーションを図って、映画、テレビ、それからCMなどのロケ誘致に向け鋭意努力していく必要があると思っています。また、それをやったから先ほどの自動車なり、それから映画のロケ地に選んでいただいたということもありません。で、実績として、まだよちよち歩きの段階ではかなりいい成果が上がったと思っています。職員もよく頑張ってくれたと思っています。しかし、ここで、ああよかったなと言うてしまえば終わりですから、さらなることをやっていく必要があると思っています。

今、美祢市フィルムコミッションの組織強化につきまして、職員の専従化をされたらどうかということでの御質問だったと思います。今、申し上げたように兼務で市の職員が、今、やっています。それより、市の職員を随分減らしていっていますので、合併時に比べて、百五、六十人は減っていると思います、7年間で市の職員が。

それで、市の業務そのものは国の地方分権、県の地方分権という形で仕事量は合併時に比べて飛躍的にふえています、市の職員のですね。ですから仕事量はふえておいて職員数はぐっと減らしているということで、非常に大変な目にあわせております。兼務でやって、ある程度の実績は上げられるでしょうけれども、やはり人間というのはやれる限りがありますし、職員が体を壊してもらっても困りますので、非常に少なくなった職員ですけれども、皆一生懸命美祢市の将来のために汗をかいてくれています。できれば、一人でもいいから専従を充てて、美祢市の、ジオパークに

せっかくなったわけですから、地球公園でいろんなロケを組んでいただくというのも、将来の世界ジオパークになる上において大きな力にもなりましょう。ですから、ちょっと本格的に考えてみようかなと思います。

以上です。

○副議長（岡山 隆君） 猶野議員。

○1番（猶野智和君） 御答弁ありがとうございます。一人でもいいから専従をちょっと検討してみると、前向きな御答弁ありがとうございます。

ちょうど、この上田市の訪問をすると、皆さんよく御存じの、来年の「真田丸」の舞台になるのが、この上田市でございます。やっぱりそういう大河ドラマとか誘致してきて強いものですね。で、こういうフィルムコミッションが一体何の役に立つんだと、今、思われてる方もいらっしゃるかもしれませんが、こういうソフト面を誘致すると、結局ロケ地めぐりとかいうことをされる方が結構いらっしゃるということで、日本でもちょっと前に韓国ドラマがたくさんはやって、韓国、海を越えてロケ地を見るということで、大挙韓国に行かれた方々もたくさんいらっしゃったと記憶されてると思います。それと一緒に、ことし話題になっているのが佐賀県でございます、この辺のニュースだと佐賀県が、タイのドラマ、映画のロケ地に立て続けに3作ぐらいやってるようで、タイからの観光客が、今なぜか佐賀県にどーんと押し寄せて来ると、だからこういうことで一つ当てると、割と大きな人の流れができるもので、大きなハード、建物をつくって維持費がかかるというものをやるよりは、こういう政策に、ソフト面に力を入れていくというのは維持費もかかりませんし、ずっと未来永劫残っていくものでございますので、効率がいいということで、このことに気づいているいろんな自治体が、割とこのフィルムコミッション事業に一斉に今力を入れている最中だと思いますので、美祿市も負けずにこの流れにぜひ乗っていただければなと思っております。

あと、この上田市の研修で思ったのは、今、2段目のギアに市長が前向きになっていただきましたけれども、この上田市は、もう1段またギアが上がってまして、誘致を超えてもう制作にかかわり始めているということを知りました。映画の制作委員会の中に一部入って行って出資を少し入れて、こうなると立場は全然制作側とは逆転しますので、立場はスポンサーになるので、必ずこの景色を入れてくれとかこう言えていく立場、そのあたりまでレベルアップの先進地もございますので、

そのあたりも将来的に、今すぐというのは美祢市はなかなか難しいと思いますけど、将来的にはそういうところも視野に入れながらこのフィルムコミッション事業が発展していけばなと思っております。

それでは、次の質問に移らさせていただきます。

次に、美祢市内のケーブルテレビの加入支援についてです。美祢市内のケーブルテレビですが、各テレビ局の番組を放送するだけではなく、美祢市内で起こった出来事や行政からのお知らせ、そして、今ごらんいただいている議会中継まで、ありとあらゆる情報をお茶の間に届ける重要なインフラの一つであります。

美祢市が合併して8年がたとうとしているわけですが、今の美祢地域、美東地域、秋芳地域、それぞれのケーブルテレビの加入率について、教えていただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

○副議長（岡山 隆君） 藤澤総合政策部長。

○総合政策部長（藤澤和昭君） 猶野議員の美祢、美東、秋芳地域それぞれの加入率についての御質問にお答えいたします。

回答に入る前にまず美祢市内のケーブルテレビについてエリアごとの放送形態を御説明いたします。

市内3地域のうち、美祢地域は美祢市有線テレビ放送エリアであり、美祢市が放送事業者として平成7年度より放送を行っております。一方、美東、秋芳地域は、山口ケーブルテレビジョン株式会社が放送事業者として、直接ケーブルテレビ放送を行っており、美東地域につきましては、平成13年度より放送開始、また、秋芳地域につきましては、平成22年度に同社が整備を行い、翌年3月より放送を開始しております。

さて、御質問の市内のケーブルテレビに関する加入率ですが、本年10月末時点では、美祢地域92.5%、美東地域89.7%、秋芳地域75.4%となっております。

○副議長（岡山 隆君） 猶野議員。

○1番（猶野智和君） 御説明ありがとうございます。

美祢地域と美東地域の加入率はいずれも約90%と高いようでございます。しかし、秋芳地域だけはそれよりも、約15ポイント低い、約75%程度にとどまってしまうということでございますね。これは、高齢者の御家庭だけをとってみ

るとさらに低い数字になるのではないかと危惧しております。

この差の原因はいろいろとあるのですが、既に合併から8年がたとうとしているわけで、重要なインフラ網の一つが、特定の地域だけ普及がおくれているということは問題ではないかと考えます。

新規加入を妨げている原因の一つとして、高額な加入料が壁になっているのではないかとと思いますが、そこで以前、秋芳地域でケーブルテレビが放送開始された時期に加入促進の割引キャンペーンが行われていました。それと同程度の割引キャンペーンをいま一度、地域の普及率の格差が解消されるまで行うということはできないでしょうか。つきましては、このことを市からケーブルテレビ会社のほうに働きかけていただきたいと思います。執行部のほうのお考えをお伺いいたします。

○副議長（岡山 隆君） 藤澤総合政策部長。

○総合政策部長（藤澤和昭君） 新規加入支援についての御質問にお答えします。

まず、秋芳地域が他の2地域と比較して加入率の低い主な原因としましては、秋芳地域が他の地域より放送開始時期が遅かったこと、また、従来からアンテナ視聴の可能な区域があり、ケーブルテレビ放送開始後も依然としてアンテナ視聴の世帯が残っていること等が挙げられます。

秋芳地域の放送開始の際には、山口ケーブルビジョン株式会社が新規加入者を確保するために、加入金及び標準工事費の割引等のキャンペーンを行い、独自に加入促進を行われております。

市においても、ケーブルテレビへの加入促進を図るとともに地域間の公平性を確保するためにも、生活保護法及び身体障害者福祉法適用者を対象に加入料及び利用料の助成制度を定め、加入促進につなげてまいりました。

しかしながら、ケーブルテレビ視聴開始から4年が経過し、加入率推移は横ばいの状態となっているのが現状です。

今後、市としましては、当該エリア放送事業者であります山口ケーブルビジョン株式会社に対し、加入金等の割引に関する新たな取り組みを要請するとともに、現在未加入の世帯に対し、キャンペーンの周知について徹底していきたいと考えております。

また、MYT自主放送番組につきましては、美東、秋芳放送エリアにおいても、本年4月よりデジタル放送を開始しており、大変好評を博しております。秋芳地域

の未加入世帯の方が、市議会放送や地域の行事等の番組に興味をお持ちいただき、少しでも身近に感じていただけるよう番組の制作を心がけていきたいと考えております。

今後も秋芳地域の加入世帯が増加するために、山口ケーブルビジョン株式会社とタイアップしつつ、利用しやすいケーブルテレビのあり方、また魅力ある自主放送番組の編成に力を注いでいく所存であります。

以上です。

○副議長（岡山 隆君） 猶野議員。

○1番（猶野智和君） 御答弁ありがとうございます。お話ですと、いま一度、以前と同じような割引を山口ケーブルテレビのほうに働きかけていただけるというお話でございます。大変ありがとうございます。

やはりこの数字をお聞きしたときに、事前に少し聞いてみたのでこの質問を持ってきたわけですが、やっぱり秋芳だけぽこんと、どうしても、これは目立つものがございます。テレビなどが視聴できないとかいう形でしたらまだあれですが、やっぱり情報の格差が地域で出てしまうと、どうしてもこれは問題かなと、やはりこの議会中継を見ていただくこともその一つでございます。何が起きているのか、その目で見て判断されるのがよいと思いますが、又聞きなどでうわさ話などで流されるようなことであってはならないので、やっぱりそれを防ぐためにも行政の責任として、そのあたりの加入率をフラットにしていくという努力を、ぜひよろしく願います。

続きまして、次の質問でございます。お買い物難民の解消についての質問をいたします。

最近、買い物難民ですとか買い物弱者という言葉をよく耳にいたします。これは経済産業省が出している買い物弱者応援マニュアルによると、流通機能や交通網の弱体化とともに、食料品等の日常の買い物が困難な状況に置かれている人々を指すそうです。また、日本全国では約700万人対象者が存在すると推計され、これも増加傾向にあるということでございます。

私が住む秋芳地域におきましても、この問題が大きくなっており、特にことし地域の流通を支えていた地元商店さんが閉店されてからは、この問題が一気に表面化しました。この商店は配達もされていたのでこれを利用していた高齢者、特に車等

の移動手段がない方には死活問題となっています。たとえ近くに運転ができる身内の方がいらっしゃったとしても、いつもいつも頼むのは気兼ねとなり、最後はタクシーを使って買い物に行くしかないというケースもあるそうです。

このように、まだ十分健康であり介護などの福祉サービスに頼るまでもない方のお買い物支援が今必要とされています。

このことに関して、コンビニなどの民間流通業者だけでなく、郵便局もこの分野への参入を計画されているようですが、いずれも実証実験の段階であり、人口密集地限定サービスであったり過疎地域までサービスが浸透してくるまで、まだまだ時間がかかるようです。

つきましては、我が美祢市の隅々まで、より早くより多くの民間業者の参入を促すことができないか、そういう施策をとれないか御検討願いたいと思いますが、こちらのほうどうお考えかお尋ねいたします。

○副議長（岡山 隆君） 西田建設経済部長。

○建設経済部長（西田良平君） それでは、食料・生活用品の宅配業支援制度についての御質問にお答えをいたします。

今回の御質問は、介護など福祉サービスの対象とならない、いわゆる買い物難民の解消を図るため、民間の商工業者に対して、事業参入を促進するための事業の創設をしてはいいかという質問であると認識しております。

現在、市内においても一部の地域で、民間事業者が参入され事業を実施されておられますが、品物にも限りがあり、全てのニーズに対応できないとのことであります。

このたび、御要望いただきました事業につきましては、過去に、検討もされたこともあろうかと思いますが、現在に至ってもいまだ事業の実施を見ておらず、事業の実施には多くの困難があるものと考えております。

今後、事業の検討を行うに当たり、まずは、公共交通機関の運行状況や福祉サービスの実施状況等を勘案しながら、利益を追求される民間の事業者に対する支援の是非、また効果的に実施するためのニーズの調査等も含めて、市長指示のもと総合的に判断してまいりたいと考えております。

以上です。

○副議長（岡山 隆君） 猶野議員。

○1番（猶野智和君） 御答弁ありがとうございます。

この、お買い物難民と言われている方々は、日本全国すぐくふえていて、特にこういう美祢市のような地域にはものすぐくふえているということは、皆さんももう御近所に私の地域だけではなくどこもそうだと思います。どうしてもこのあたりニーズがあるはずではございますが、なかなかこの実態はまだつかめてないところがあると思います。ですので、いろいろその業者参入に関して促す方法とかいろいろ考えられることあると思いますが、直接的な支援等だけではなくてニーズの調査、先ほどニーズの調査も含めて総合的にとりましたが、こういうところ実態がどうなのか、この美祢地域が、こういうのをぜひ調査していただいて、それをまたオープンにさせていただく、で、その各業者の皆さんはそれを見て採算が合うのかどうかの判断をすることができると思います。

例えば、少しその気があって事業計画をつくる時に、銀行に提出するときにその公的なデータが、また土台になったりとかすることもあると思いますので、その先を見越した調査を、ぜひまず手をつけていただいて将来的なこういう業種の発達を促していただければ、できればこれが一つの雇用となっていく方向に、新しい職場となっていく方向に回っていくというのが一番理想ですので、そういう視点でぜひこのお買い物難民という分野をぜひ研究していただければなと思います。

それでは、次の質問に移ります。次に、秋吉台周辺地域の美観維持についてです。

多くの観光客が訪れる観光地の美観を維持することは、管理する者として非常に重要な責務であることは言うまでもありません。そういう重要な職務を日々行っている職員の皆様には大変感謝しております。

しかしながら、ここ数年その美観維持に、やや陰りが見えるのではないかという声も聞こえてまいります。

数年前までは総合観光部内に秋吉台周辺地域の景観美観を維持するための専従職員さんがいらっしゃいました。しかし、人件費削減のためなのでしょうか、現在は全て外部に委託されていると聞いております。正直なところ外部委託業者だけでは、かゆいところに手が届くきめ細かい管理はなかなか難しいのではないかと現状ではそういうことではないかと思いますが、いかがでしょうか。

厳しい市の財政状況や観光事業特別会計の赤字のために、今まではいたし方のなかったところではあったと思いますが、赤字解消のめどがたった今、以前のように

専従職員を内部に抱え美観維持管理業務の充実を、いま一度図るべきではないかと考えますが執行部のお考えをお伺いいたします。

○副議長（岡山 隆君） 奥田総合観光部長。

○総合観光部長（奥田源良君） それでは、猶野議員の草刈り等の美観維持体制の現状と今後についての御質問にお答えをいたします。

現在市では、当該地域の美観維持におきまして、秋芳洞、秋吉台展望台付近を中心に、この地を訪れられる観光客の方の歓迎と感謝の気持ちを込めまして、環境美化活動を行っております。

所管課である観光総務課の環境美化に係る年間予算額は、平成27年度で約1,500万円となっております。この財源をもとにシルバー人材センター等業者に委託して実施をしております。

議員が御指摘のとおり、観光地の美観維持につきましては、トイレを含めまして非常に重要であり、おもてなしの原点と捉えてございます。

これまで経営健全化中では、あらゆる面で創意工夫をこらし、ときには職員がボランティアで草刈り作業を行うなど経費の削減を行ってまいりました。

これらを含めました経営努力の結果、合併時にありました観光事業の累積赤字額約15億6,000万円を今年度解消する見込みとなっております。

経営健全化計画後の新たな財政計画においては、観光事業の再構築を目的に掲げ、広告宣伝営業強化、施設改修、人材育成を柱として、おもてなしとホスピタリティあふれるサービスにより、観光客の満足度を向上することを目的としております。

今後環境美化の取り組みに関しましては、まずは、業者発注の際にも打ち合わせと内容の充実、きめ細かな美観維持を図る予定としております。仕様書を充実させるということでございます。

さらには、業務の繁閑対策として、職員みずからが環境美化活動を行い、おもてなしの心の醸成を目標に人材育成を図ることを検討しております。

また、周辺の道路の美観維持につきましては、県道、市道等ございますが、市建設課及び県機関との協力関係をもとに緊密な連携をとり、交流拠点都市、観光立市にふさわしい観光地の美観維持に努めてまいりたいと思っております。

なお、先ほどの答弁の中にもありましたが、今、市では世界ジオパークを目指すこととしておりますが、秋吉台、秋芳洞地域等の世界に誇る貴重な地質遺産を、皆

様とともに守り、生かしていく活動の発信強化を図ってまいりたいと考えております。従いまして、行政と市民、あるいは関係団体と一体となった協働活動が一層重要となってまいりますので、創意あふれる環境美化活動等、御協力のほどお願いしたいと思っております。

以上でございます。

○副議長（岡山 隆君） 猶野議員。

○1番（猶野智和君） 御答弁ありがとうございます。観光客にとって直接見えるところというのは、やはり観光地としては非常に重要でございます。以前も、ほかの議員の方々も、トイレのことですとかそれも含めて御指摘されたこともたくさんあったこともございます。ですので、そのあたり今回いろいろな方策をとって改善していくということでございますので、それを期待しております。

また、それで足りないことがあれば、ぜひ市長がまた新しいアイデアを出していただけたらと思いますので、そのあたりで、観光地としての基本的な美しい秋吉台、このあたりを観光客の皆様に来ていただいて満足して帰っていただけるように、そういう秋吉台であってほしいと思っております。

皆様で、私も含めて努力してまいりたいと思っておるところでございます。

それでは、質問のほうは以上でございます。1日目のラスト、ほぼいい時間になったと思いますので、これで、質問のほう閉じさせていただきたいと思います。

本日は、ありがとうございました。

○副議長（岡山 隆君） それでは、以上をもちまして、本日予定された一般質問は終了いたします。

残余の一般質問につきましては、明日行いたいと思います。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでございました。

午後2時57分散会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

平成27年12月3日

美祢市議会議長

秋山哲朗

美祢市議会副議長

岡山隆

会議録署名議員

滝谷九朗

”

竹岡昌治